

2014 年度 第 2 回単位互換・京カレッジに関する事務担当者会議 次 第

【日時】 2014 年 11 月 14 日（金） 14：00～16：00

【場所】 キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 会議室

I 開会にあたって

II 報告事項

1. 単位互換・京カレッジに関する共通の報告

- （1）2015 年度ガイドラインについて＜別添資料＞
- （2）2015 年度出講案内について＜別添資料＞

2. 単位互換に関する報告

- （1）2015 年度プラザ推奨科目（旧コーディネート科目）について＜資料 1＞
- （2）世界遺産 PBL 科目の採択について＜資料 2＞
- （3）2014 年度単位互換事業の履修状況について＜資料 3＞
- （4）単位互換に関する事務連絡について＜資料 4＞

3. 京カレッジに関する報告

- （1）2014 年度出願状況について＜資料 5＞
- （2）2015 年度「京都力養成コース」の採択について＜資料 6＞

III 依頼事項

1. 単位互換・京カレッジ事業に関する共通の依頼

- （1）2015 年度シラバス作成の依頼と注意事項について＜資料 7＞
- （2）2015 年度単位互換・京カレッジ開講準備に向けての依頼事項＜資料 8＞

2. 単位互換に関する依頼

- （1）休学期間中の単位互換制度の活用について＜資料 9＞

3. 京カレッジに関する依頼

- （1）2015 年度京カレッジへの大学科目・公開講座の提供について＜資料 10＞
- （2）第 4 ステージプランにおける生涯学習事業（京カレッジ）のあり方について＜資料 11＞

IV 情報交換

- 1. 単位互換事業について
- 2. 生涯学習事業（京カレッジ）について
- 3. その他

V 閉会

以 上

2015年度プラザ推奨(旧コーディネート)科目について

資料1

2015年度のプラザ推奨(旧コーディネート)科目は以下の通りです。現在、財団では当該科目の開講条件の整備をしております。3年間開講することを原則としておりますが、開講条件の整備状況によって3年間継続を保障するものではありません。

継続科目(14科目<3年目:7科目 2年目:7科目>)

科 目 名	大 学	担 当 者	開講期間	開始 年度	備考
eラーニング科目 消費者取引と大学生～理論と実際の対策～	京都産業大学	吉永 一行	春学期	13	3年目
eラーニング科目 コンピューティングファンダメンタルズ	京都光華女子大学	阿部 一晴	前期	13	3年目
eラーニング科目 リビングオンライン	京都光華女子大学	阿部 一晴	後期	13	3年目
プラザ推奨 語りから未来を紡ぐ:方法論と実践	龍谷大学	笠井 賢紀	前期集中	13	3年目
京都学 京都演劇ワークショップ	龍谷大学	Jonah Salz	夏期集中	13	3年目
京都学 京都の舞台入門:演劇表現入門	龍谷大学	Jonah Salz	前期	13	3年目
プラザ推奨 サイエンスとアート	京都精華大学	濱田 邦裕	後期	13	3年目
プラザ推奨 大学スポーツ政策論:学生・スポーツ・大学・地域を紡ぐ方策	立命館大学	長横 仁	集中	13	2年目
プラザ推奨 Integrated Skills —英語口と英語舌から発音力とリスニング力アップ—[高大連携]	京都外国語大学	倉田 誠	前期	14	2年目
プラザ推奨 地球の異文化理解(比較文化研究編)	京都外国語大学	佐々木 伸一	後期	14	2年目
プラザ推奨 Integrated Skills(コミュニケーション編)[高大連携]	京都外国語短期大学	DAVEY IAIN	後期	14	2年目
プラザ推奨 VB特殊講義(PY)「関西の21世紀学」	立命館大学	宮脇 昇	後期	14	2年目
京都 特殊講義 I「京都の文化遺産とその保護」	立命館大学	大窪 健之	夏期集中	14	2年目
eラーニング科目 eビジネス論	京都光華女子大学	阿部 一晴	後期	14	2年目

※3年目となる「宗教と倫理」「宗教と平和」(龍谷大学/担当:井上善幸)については2015年度不開講

2015年度開設科目(16科目)

科 目 名	大 学	担 当 者	開講期間	開始 年度	備考
京都学 京都商業特別講座A	京都学園大学	堀池 敏男	前期	15	初年度
京都学 京都商業特別講座B	京都学園大学	堀池 敏男	集中	15	初年度
プラザ推奨 創作論	京都精華大学	濱田 邦裕		15	初年度
プラザ推奨 天文学と私たち ～神山天文台からのアプローチ～	京都産業大学	中道 晶香	集中	15	初年度
世界遺産 京都産業大学と京都の世界遺産PBL	京都産業大学	若松 正志		15	初年度
京都学 歴史都市京都の文化と観光 —京都検定への誘い—	京都産業大学	吉野 秋二	集中	15	初年度
世界遺産 コミュニティマネジメント特論	龍谷大学	笠井 賢紀		15	初年度
世界遺産 環境工学の視点で空間を捉える ～五感で親しむ魅力のスポットの発見～	京都ノートルダム女子大	竹原 広美		15	初年度
世界遺産 O2Oマーケティングによる地域活性化	同志社大学	多田 実		15	初年度
世界遺産 (歴史)遺産情報演習 I 	京都橘大学	一瀬 和夫		15	初年度
京都学 京都の歴史と文化遺産	京都橘大学	増渕 徹	集中	15	初年度
世界遺産 絵巻を作る—記録保存と伝承—	京都市立芸術大学	宇野 茂男		15	初年度
プラザ推奨 哲学入門—現代社会の諸問題に立ち向かうために	京都大学	児玉 聡	後期	15	初年度
プラザ推奨 運動と栄養と暮らしを 「エネルギー」から考える	立命館大学	海老 久美子	集中	15	初年度
世界遺産 京都有名社寺域の境内の見どころを巡る バリアフリー動線の提案	立命館大学	宗本 普作		15	初年度
世界遺産 政策科学特別実習1 (京都の世界遺産 仁和寺)	立命館大学	桜井 政成		15	初年度

※プラザ推奨:プラザ推奨科目 京都学:プラザ推奨科目(京都学) 世界遺産:プラザ推奨科目(京都世界遺産)

資料 2

2015 年度単位互換事業（プラザ推奨科目）
「京都世界遺産 PBL 科目～世界遺産が学びのフィールド」
の採択結果について（報告）

このことについて、2015 年度の新たな単位互換として京都世界遺産 PBL 科目の募集を行ったところ、7 大学から 8 件の応募科目があった。教育企画検討委員会において採択審査を審議したところ、下記のとおり採択が決定したので報告する。

記

《2015 年度単位互換「京都世界遺産 PBL 科目」採択一覧》

連携世界遺産名	科目名（仮称）	申請大学名	担当教員氏名
上賀茂神社	京都産業大学と京都の世界遺産 PBL	京都産業大学	若松 正志
醍醐寺	コミュニティマネジメント特論	龍谷大学	笠井 賢紀
上賀茂神社	環境工学の視点で空間を捉える ～五感で親しむ魅力のスポットの発見	京都ノートルダム 女子大学	竹原 広美
二条城	020 マーケティングによる地域活性化	同志社大学	多田 実
醍醐寺	（歴史）遺産情報演習Ⅰ＜b＞	京都橘大学	一瀬 和夫
東寺	絵巻を作る－記録保存と伝承－	京都市立芸術大学	宇野 茂男
清水寺	京都有名社寺城の境内の見どころを巡る バリアフリー動線の提案	立命館大学	宗本 普作
仁和寺	政策科学特別実習Ⅰ （京都の世界遺産 仁和寺）	立命館大学	桜井 政成

以 上

【広報活動ご協力のお願い】

京都世界遺産 PBL 科目は「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」（会長：松浦晃一郎前ユネスコ事務局長）と連携し、2015 年度から新規で開講する単位互換科目です。ポスター等を 2015 年 1 月頃に配布する予定ですので、学内広報にご協力のほどお願いいたします。

2014 年度単位互換事業の履修状況について（報告）

＜登録状況＞

今年度の単位互換制度は 48 大学・短期大学（部）（昨年度より大阪成蹊大学芸術学部、昭和女子大学短期大学部が減少）が参加した。提供された 516 科目（前年度 540 科目）に対し、出願者数（延べ数）5,287 名となり、昨年度比 467 名（昨年度比 92%）の減少となり 5 年連続の減少となった。2014 年度の一人当たりの出願科目数は、1.56 科目であった。

なお、今年度から紙媒体の募集ガイドを廃止し、特設 WEB サイトと簡易版のリーフレットを作成し、学生用の広報として活用した。

＜e ラーニング科目＞

e ラーニング科目については大学・短期大学から 16 科目（昨年度 17 科目）提供された。出願者 808 名のなかで科目による出願者数が異なり、興味のある科目に出願が集中したと考えられる。出願者の 10%を占める科目は「京都学：京都の食文化を知る」の 101 名、「コミュニケーション論」の 185 名である。

2014 年度の e ラーニング科目への出願者は 2013 年度の 974 名から 166 名減となった。これについては、e ラーニング科目の後期登録受付を取りやめた（後期授業開始日が履修可否結果通知日より前となる為、1 回目の授業が受けられない事象が発生するため）ことが要因の一つであると考えられる。

＜昨年度との比較＞

昨年度と比較して科目提供数を 3 科目以上増加させている大学は、京都産業大学と京都大学 2 大学のみとなっており、それ以外のほとんどの大学は、提供科目数が昨年度同様もしくは減少している状況である。

また、減少幅の多い大学では昨年度と比較して提供数を 10 科目減少させており、全体では「オンキャンパス科目」が 10 科目の減、「プラザ科目」が 13 科目の減、e ラーニング科目が 1 科目減となった（全体ではマイナス 24 科目減）。これについては、前年度に科目の整理とともに特色ある科目の提供をお願いした経緯もあり、次年度も引き続き各大学に特色ある科目の提供をお願いしていく。

なお、2014 年度の追加登録の出願人数は 11 名と 2013 年度よりわずかに増えているが、9 大学が追加登録（前期登録と後期登録の中間登録）の受付を止めており、追加登録の仕組みを継続していくのかについては大学との調整が必要である。

以 上

大学ID	大学・短期大学(部)名	2014年度											2013年度			2013年度との比較(増減)						
		前期登録(4月)			追加登録(6月)			後期登録(9月)			合計		合計			出願者数	%	履修許可者数	%	受入学生数	%	
		出願者数	履修許可者数	受入れ学生数	出願者数	履修許可者数	受入れ学生数	出願者数	履修許可者数	受入れ学生数	出願者数	履修許可者数	受入学生数									
201	池坊短期大学	0	0	119						0	0	0	119	5	5	139	-5	0%	-5	0%	-20	86%
202	大阪医科大学	20	20	25	0	0	1	2	2	8	22	22	34	28	26	44	-6	79%	-4	85%	-10	77%
204	大谷大学	24	22	51	1	1	2			0	25	23	53	17	16	43	8	147%	7	144%	10	123%
205	大谷大学短期大学部	0	0	10	0	0	2	0	0	0	0	0	12	2	2	8	-2	0%	-2	0%	4	150%
206	華頂短期大学	0	0	0	0	0				0	0	0	0	6	6	4	-6	0%	-6	0%	-4	0%
207	京都大学	3	3	191						0	3	3	191	3	3	198	0	100%	0	100%	-7	96%
208	京都外国語大学	42	39	36			3			9	42	39	48	81	75	68	-39	52%	-36	52%	-20	71%
209	京都外国語短期大学	10	10	38						0	10	10	38	14	12	29	-4	71%	-2	83%	9	131%
210	京都学園大学	41	41	269	3	3	18	29	27	3	73	71	290	76	76	238	-3	96%	-5	93%	52	122%
211	京都教育大学	21	21	39	0	0	5	0	0	10	21	21	54	15	14	63	6	140%	7	150%	-9	86%
212	京都経済短期大学	6	6	27	0	0	2			0	6	6	29	6	6	25	0	100%	0	100%	4	116%
213	京都光華女子大学	18	17	112	5	5	4	0	0	2	23	22	118	29	29	169	-6	79%	-7	76%	-51	70%
214	京都光華女子大学短期大学部	0	0	47	0	0		0	0	0	0	0	47	0	0	80	0	-	0	-	-33	59%
215	京都工芸繊維大学	60	52	32	5	5		4	4	0	69	61	32	137	128	31	-68	50%	-67	48%	1	103%
216	京都嵯峨芸術大学	8	7	17						0	8	7	17	15	15	6	-7	53%	-8	47%	11	283%
217	京都嵯峨芸術大学短期大学部	3	2	0						0	3	2	0	0	0	5	3	-	2	-	-5	0%
218	京都産業大学	834	746	301	76	76	10	271	253	8	1181	1075	319	1003	955	404	178	118%	120	113%	-85	79%
219	京都女子大学	315	307	97						0	315	307	97	303	274	134	12	104%	33	112%	-37	72%
221	京都市立芸術大学	3	3	24						0	3	3	24	4	4	56	-1	75%	-1	75%	-32	43%
222	京都精華大学	11	11	101						0	11	11	101	12	10	131	-1	92%	1	110%	-30	77%
223	京都西山短期大学	0	0	4				0	0	0	0	0	4	2	2	50	-2	0%	-2	0%	-46	8%
224	京都造形芸術大学	6	4	87				0	0	3	6	4	90	14	12	129	-8	43%	-8	33%	-39	70%
225	京都橘大学	0	0	34			2	2	0	5	2	0	41	9	9	32	-7	22%	-9	0%	9	123%
226	成美大学短期大学部	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-
227	京都ノートルダム女子大学	7	7	125	0	0	3	0	0	18	7	7	146	12	11	175	-5	58%	-4	64%	-29	83%
228	京都府立大学	15	15	33	2	2	1			0	17	17	34	35	33	34	-18	49%	-16	52%	0	100%
229	京都府立医科大学	0	0	36						0	0	0	36	4	4	19	-4	0%	-4	0%	17	183%
230	京都文教大学	16	16	15				1	1	3	17	17	18	12	11	40	5	142%	6	155%	-22	45%
231	京都文教短期大学	4	4	336	0	0	8	2	2	16	6	6	360	2	2	326	4	300%	4	300%	34	110%
232	京都薬科大学	8	4	31	2	2	3	1	1	18	11	7	52	33	30	73	-22	33%	-23	23%	-21	71%
233	種智院大学	3	3	39	0	0	1	0	0	2	3	3	42	2	2	41	1	150%	1	150%	1	102%
234	成安造形大学	8	8	25	0	0		0	0	11	8	8	36	4	4	28	4	200%	4	200%	8	129%
235	京都聖母学院短期大学	6	6	1				0	0	0	6	6	1	2	1	0	4	300%	5	600%	1	0%
236	同志社大学	111	107	298	6	6	22	4	4	92	121	117	412	169	156	423	-48	72%	-39	75%	-11	97%
237	同志社女子大学	68	65	42	5	5				0	73	70	42	182	173	26	-109	40%	-103	40%	16	162%
238	花園大学	11	11	573						0	11	11	573	8	8	470	3	138%	3	138%	103	122%
239	佛教大学	64	62	124	13	13	26	6	6	46	83	81	196	120	114	319	-37	69%	-33	71%	-123	61%
240	平安女学院大学	11	11	59	0	0	8	3	3	23	14	14	90	20	19	61	-6	70%	-5	74%	29	148%
241	平安女学院大学短期大学部	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	49	0	-	0	-	-49	0%
242	明治国際医療大学	4	4	43	0	0	4	0	0	0	4	4	47	18	18	86	-14	22%	-14	22%	-39	55%
243	立命館大学	2738	2323	206						0	2738	2323	206	2968	2321	159	-230	92%	2	100%	47	130%
244	龍谷大学	198	183	481	25	25	13	80	74	70	303	232	564	361	345	444	-58	84%	-63	82%	120	127%
245	龍谷大学短期大学部	0	0	29	0	0	4	0	0	30	0	0	63	0	0	45	0	-	0	-	18	140%
246	早稲田大学	31	31	20						0	31	31	20	18	18	28	13	172%	13	172%	-8	71%
247	昭和女子大学	7	7	4	1	1	2			0	8	8	6	1	1	5	7	800%	7	800%	1	120%
249	京都華頂大学	3	3	0	0	0				0	3	3	0	1	1	0	2	300%	2	300%	0	-
250	京都美術工芸大学	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	1	1	0	-1	0%	-1	0%	0	-
703	成美大学	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-
	京都女子大学短期大学部													0	0	0	0	-	0	-	0	-
	大阪成蹊大学芸術学部													0	0	15	0	-	0	-	-15	0%
	昭和女子大学短期大学部													0	0	0	0	-	0	-	0	-
	総計	4738	4181	4181	144	144	144	405	377	377	5287	4702	4702	5754	4952	4952	-467	92%	-250	95%	-250	95%

※左のグレーの網掛けは、登録出願なし

※2014年度は京都薬科(1名)はプラザ科目を、龍谷大学(出願者108名 履修許可者102名)は他学部受講を単位互換として扱っているため自大学の学生が出願者・履修者に含まれている。

2014年10月30日 現在

※京都産業大学(出願者8名、履修許可者7名)、京都学園大学(出願者2名、履修許可者2名)、種智院大学(3名)は、自大学の共通教養科目の出願の際にe京都ラーニングを使用する為、出願者・履修者に自大学の学生を含んでいる。

※京都ノートルダム女子(1名)、佛教(10名)は自大学の学生を単位互換として扱っている。

単位互換事業に関する事務連絡

1. 次年度キャンパスプラザ開講科目について

シラバス入力データをもとに大学コンソーシアム京都が教室を予約します。入力締切【2015 年 1 月 23 日（金）】後、すぐにダウンロードしたデータを使用しますので、それまでに日程等の必要事項の入力をお願いします。開講にあたりましてこちらでご準備できる設備・利用機器については、調整が必要になります。改めて、2 月中旬頃に設備・利用機器の確認をさせていただきます。

2. 科目開設補助金の支給基準について

科目開設補助金の支給基準は、他大学の学生・京カレッジ生が授業定員の 50% 以上を占め、キャンパスプラザ京都で開講される持ち出し科目かつ履修許可者数が 10 名以上いる科目を支給対象とします。2014 年度対象の科目については今回の担当者会議終了後、各大学にご連絡させていただきます。

なお、本来プラザ科目で実施する予定であったが、実習科目等施設の都合上でオンキャンパス科目としている例外事項に対しては、プラザ科目と同様に科目開設補助金を支給いたします。ただし、自大学生が受講しておらず、単位互換のために科目を作っている持出科目を支給条件とします。

3. 広報依頼および単位互換事業説明会について

単位互換事業について多くの学生に利用していただけるよう、学内発行物への掲載などでご周知をお願いいたします。また、学生への単位互換事業説明会用の Power Point 資料を用意していますので、各大学のご説明時にご活用ください。なお、財団職員による説明会を希望される場合は、対応に限りがありますので一度、大学コンソーシアム京都にご相談ください。

4. e ラーニング科目の開講について

2016 年度に e ラーニング科目の開講を予定または希望される場合は、大学コンソーシアム京都にて e ラーニング授業作成等にかかわる説明をさせていただきますので、ご相談ください。

5. アンケート懸賞当選者への当選通知のご協力について

2014 年度単位互換科目において、Web 授業アンケートを回答した学生のうち、抽選で 100 名に Quo カード（500 円分）を進呈します。当選学生には、大学コンソーシアム京都から 2 月中旬頃にメールで連絡し、郵送かキャンパスプラザで進呈します。その際に併せて、財団より各大学のご担当者様宛に当選学生をお伝えいたしますが、当該学生への周知にご協力をお願いするとともに、大学で配布協力いただける場合はご一報ください。

以 上

2014 年度 京カレッジ生出願状況について（報告）

資料 5

1. 募集概要

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ①大学正規科目（A～J） | 単位修得が可能な講座 |
| ②市民教養講座（K） | 健康・芸術・文化など幅広く学べる講座 |
| ③キャリアアップ講座（L） | 多様な語学、資格取得など実学が充実した講座 |
| ④京都力養成コース（M） | 地域での社会活動のための力ときっかけを得るコース |

2. 広報活動

<前期>

- ①財団ホームページに京カレッジ案内掲載（メールによる募集ガイド請求）
- ②過年度の受講者約 2,200 名へDM送付
- ③加盟大学・短期大学に募集ガイド配布
- ④広報用ポスター配布 17 か所（市役所、区役所等）＋地下鉄各駅
- ⑤募集ガイド・京都学講座リーフレット配布 23 か所（市役所、市立図書館等）
- ⑥「きょうと市民しんぶん」に案内掲載
- ⑦新聞（京都・朝日・読売・毎日 4 紙）での折込みチラシ 40 万枚配布（郵送料財団負担の資料請求はがき付）
- ⑧幼保特例制度説明会、幼稚園・保育園への郵送

3. 出願方法・受付期間

<前期> 郵送：2014 年 3 月 8 日（土）～22 日（土）

持参：2014 年 3 月 19 日（水）～22 日（土）10：00～16：00

<後期> 郵送：8 月 16 日（土）～30 日（土）

持参：8 月 29 日（金）～30 日（土）10：00～16：00

4. 出願方法（前期・後期）

出願方法	2014 年度		2013 年度		2012 年度	
	出願者数	割合	出願者数	割合	出願者数	割合
持参	268 名	36.8%	239 名	43.8%	292 名	47.3%
郵送	390 名	53.5%	230 名	42.1%	235 名	38.0%
Web 出願	71 名	9.7%	77 名	14.1%	91 名	14.7%
合計	729 名		546 名		618 名	

※出願者数は受付期間内。その後の出願取消者等を含むため、最終出願者数とは異なる。

5. 科目提供大学数、提供科目数、受講科目数、出願者数

(1) 前期・後期

年度	科目提供 大学数 (注 1)	提供 科目数	出願のあつ た科目数	出願者数				一人あたり 平均出願科 目数
				<実数> (合計) (後期のみ)		<延べ数> (合計) (後期のみ)		
2014	34 大学 1 機関	373 科目	172 科目	729 名	18 名	1,749 名	24 名	2.4 科目
2013	36 大学 1 機関	428 科目	207 科目	522 名	16 名	1,114 名	40 名	2.1 科目
2012	36 大学 1 機関	469 科目	228 科目	618 名	18 名	1,327 名	62 名	2.1 科目

(2) 前期のみ

年度	科目提供 大学数	提供 科目数	出願科目数	出願者数		一人あたり併 願科目数
				実数	延べ数	
2014	34 大学 1 機関	373 科目	159 科目	698 名	1,702 名	2.4 科目

(3) 後期のみ

科目提供 大学数	提供科目数	出願科目数	出願者数 (うち後期のみ出願者数)		一人あたり平 均出願科目数
			実数	延べ数	
18 大学	102 科目	28 科目	31 名 (18 名)	47 名 (24 名)	1.5 科目

6. 2014 年度受講許可者数等 (前期・後期)

出願者延べ数	受講許可者数 (うち許可後辞退者数)	受講不許可者数
1,749 名	1,524 名 (71 名)	225 名

7. 出願者内訳

(1) 年代別出願状況 (カッコ内の数字が後期)

年代	男性	女性	合計	割合	2013 年度
10 代	0 名	1 名	1 名	0.1%	0.2%
20 代	2 名	77 名	79 名	10.8%	3.1%
30 代	13 名	93 名	106 名	14.5%	4.2%
40 代	9 名	96 名	105 名	14.4%	9.0%
50 代	33 名	81 名	114 名	15.6%	18.6%
60 代	137 名	92 名	229 名	31.4%	47.3%
70 代	63 名	24 名	87 名	11.9%	16.3%
80 代以上	6 名	1 名	7 名	1.0%	1.3%
不明	1 名	0 名	1 名	0.1%	0.0%
合計	264 名	465 名	729 名	—	—

(2) 出願科目数

出願科目数	出願者数	割合	2013 年度
1 科目	271 名	37.2%	44.2%
2 科目	184 名	25.2%	28.9%
3 科目	86 名	11.8%	14.0%
4 科目	109 名	15.0%	5.2%
5 科目	70 名	9.6%	3.1%
6 科目	5 名	0.7%	2.5%
7 科目	0 名	0.0%	0.4%
8 科目	1 名	0.1%	0.6%
9 科目	3 名	0.4%	0.6%
10 科目以上	0 名	0.0%	0.6%
合計	729 名	—	—

(3) 科目種目別の科目数及び出願者の内訳について

科目種別	科目数(合計比)	出願者のあった科目(履修率)	出願者数<延べ数>(合計比)
大学正規科目 (A~J)	308 科目(82.6%)	139(9)科目(45.1%)	1,216(35)名(69.5%)
(e ラーニング科目)	(7) (1.9%)	(3)(42.9%)	(3) (0.2%)
市民教養講座 (K)	13 科目(3.5%)	13 科目(100%)	92(5)名(5.3%)
キャリアアップ講座 (L)	44 科目(11.8%)	12(5)科目(15.9%)	19 (7) 名(1.1%)
京都力養成コース (M)	8 科目(2.1%)	8 科目(100%)	422 名(24.1%)
合計	373 科目	172 科目 (46.1%)	1,749 (47) 名
オンキャンパス科目	提供：275 科目	出願：118 科目	出願率：42.9%
プラザ科目	提供：98 科目	出願：50 科目	出願率：51.0%

- ・「科目数」、「出願者数」欄の割合は、「合計」に対する割合を示す。
- ・「出願者のあった科目」欄の割合は、科目種別毎の「科目数」に対する割合を示す。
- ・e ラーニング科目は大学正規科目の内数を示す。

(4) 京都力養成コース (M) の出願者内訳について

科目名	提供大学・機関	定員	出願者	充足率
京都学講座「京を旅する」	大学コンソーシアム京都	250 名	117 名	46.8%
京の漬け物と乳酸菌	放送大学	25 名	62 名	248%
「表現力」を磨いて京都から新たな文化発信を	平安女学院大学	30 名	15 名	50%
『平家物語』の京都	大谷大学	30 名	42 名	140%
京のまちなかミュージアム講座	京都外国語大学	20 名	12 名	60%
京都の空間美、祭礼のしつらい美	京都嵯峨芸術大学	30 名	45 名	150%
京都伏見の歴史的位置	京都産業大学	30 名	66 名	220%
京の社	龍谷大学	20 名	63 名	315%
合計		435 名	422 名	96.8%

(5) 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得特例制度の利用状況

科目名	開講大学	出願者数(定員)	備考
教育制度論	大谷大学短期大学部	86 (100) 名	保→幼免取得
保育者論	大谷大学短期大学部	90 (100) 名	保→幼免取得
保育臨床相談	大谷大学短期大学部	93 (100) 名	保→幼免取得
保健と食と栄養	大谷大学短期大学部	99 (100) 名	幼→保士取得
教育課程論	京都光華女子大学短期大学部	79 (100) 名	保→幼免取得
保育内容指導法	京都西山短期大学	107 (100) 名	保→幼免取得
乳児保育	京都西山短期大学	82 (50) 名	幼→保士取得
福祉と擁護	京都西山短期大学	122 (100) 名	幼→保士取得
相談支援	京都ノートルダム女子大学	96 (100) 名	幼→保士取得
合計		854 名	実数 259 名

(6) 各大学への出願状況

No.	大学・機関名	提供科目数	出願科目	出願率
1	池坊短期大学	7 科目	4 科目	57%
2	大谷大学	5 科目	5 科目	100%
3	大谷大学短期大学部	6 科目	6 科目	100%
4	華頂短期大学	1 科目	1 科目	100%
5	京都外国語大学	12 科目	9 科目	75%
6	京都外国語短期大学	1 科目	0 科目	0%
7	京都学園大学	8 科目	6 科目	75%
8	京都華頂大学	1 科目	0 科目	0%
9	京都教育大学	15 科目	12 科目	80%
10	京都光華女子大学	12 科目	8 科目	67%
11	京都光華女子大学短期大学部	1 科目	1 科目	100%
12	京都工芸繊維大学	2 科目	1 科目	50%
13	京都嵯峨芸術大学	7 科目	4 科目	57%
14	京都嵯峨芸術大学短期大学部	1 科目	0 科目	0%
15	京都産業大学	38 科目	3 科目	8%
16	京都市立芸術大学	19 科目	8 科目	42%
17	京都西山短期大学	4 科目	3 科目	75%
18	京都造形芸術大学	12 科目	12 科目	100%
19	京都橘大学	17 科目	9 科目	53%
20	京都ノートルダム女子大学	15 科目	9 科目	60%
21	京都府立大学	5 科目	0 科目	0%
22	京都文教大学	12 科目	0 科目	0%
23	京都文教短期大学	5 科目	3 科目	60%
24	京都薬科大学	2 科目	1 科目	50%
25	種智院大学	4 科目	4 科目	100%
26	同志社大学	40 科目	13 科目	33%
27	同志社女子大学	11 科目	4 科目	36%
28	花園大学	6 科目	4 科目	67%
29	佛教大学	3 科目	1 科目	33%
30	平安女学院大学	10 科目	5 科目	50%
31	放送大学	1 科目	1 科目	100%
32	立命館大学	53 科目	19 科目	36%
33	龍谷大学	32 科目	14 科目	44%
34	龍谷大学短期大学部	4 科目	1 科目	25%
1	大学コンソーシアム京都	1 科目	1 科目	100%
合計		373 科目	172 科目	46.1%

8. まとめ

(1) 出願者数

2014 年度京カレッジの出願者数は、実数で 729 名、延べ数で 1,749 名となった。前年比（実数 522 名、延べ数 1,114 名）では、実数で 207 名、延べ数で 635 名の増加となった。ただ、増加の要因は、「幼保連携型認定こども園」が制度化（平成 27 年 4 月施行予定）されたことによる円滑な移行・促進のために、その経過措置として今年度から設けた「特例講座」への出願者が加わったためであり、それらの数字を引くと実数で 470 名、延べ数で 895 名となり、2011 年度から出願者数は 3 年連続で減少傾向にある。

(2) 「認定こども園制度」移行への新たな取り組み

「幼稚園免許状又は保育士資格取得のための特例制度」に基づく特例講座として、趣旨に賛同する大学・短期大学との連携により、新たに 9 科目を開設した結果、実数で 259 名、延べ数で 854 名の出願があった。国の政策に対して、加盟大学が新たに連携できた好例である。特例措置は 2019 年度末までと時限的であるため、今後、出願者数の増加を図る上で、新たな受講者層の開拓や加盟大学間の連携を図るなど対策が必要になっている。

(3) 京カレッジ募集ガイドの請求数

2014 年度募集ガイドの請求は約 2,000 件（DM 約 1,000 件、折込チラシの資料請求ハガキ 約 700 件、メール 約 300 件、その他電話等 140 件、幼保特例制度説明会 約 450 件）であったが、出願者数で見ると限り出願につながっていない。

(4) 出願受付状況

出願受付は郵送が 390 件で多く、持参 268 件、Web 登録利用者が 71 件となった。2012 年度から導入している Web 登録は、出願書類の入力簡素化という利点はあるが、Web 登録後にプリントアウトした出願票や写真、卒業証明書を郵送または持参するため、出願者の手間を省くための Web の特色が生かされているとはいえない。

(5) 受講者層

出願者の年代別出願状況は、60 代が最も多くなった。これまでは 60 代以上のシニア層が増加傾向にあるが、今回は 31.4%にとどまっている。これは、前述の特例制度を利用する出願者が 20 代から 40 代の年齢層が多いためであり、この部分の人数 259 名（20 代 71 名、30 代 79 名、40 代 77 名、50 代 25 名、60 代 6 名、70 代 1 名）分を除くと、60 代は 47.4%を占めており、2013 年度の比率とほぼ同じであり、主要な受講層であることは変わらない。

(6) 出願科目数

1 科目のみの出願者が 271 名（全体の 37.2%）と最も多く、1 度の申込みで複数の大学へ同時に申し込めるというメリットはあまり感じていないようである。なお、4 科目、5 科目の出願者の大半が前述の幼保資格取得の特例制度利用者である。

(7) 大学正規科目出願数

科目種目別で提供科目数及び出願者の内訳の「大学正規科目」では、308 科目の提供のうち出願があったのは 139 科目で履修率は 45.1%であったため、約 6 割の科目で出願がなかったことになる。また、e ラーニング科目への出願は 3 名（昨年度 6 名）の出願者しかなかった。

(8) 大学正規科目以外の出願数

科目種目別で提供科目数及び出願者の内訳の「市民教養講座」、「京都力養成コース」は、提供科目数 21 科目すべてに出願があった。特に「京都力養成コース」は定員を超える出願があるなど需要が見込める。定員を超える講座については抽選となるが、出願から漏れた出願者からクレームが寄せられる原因となるため、定員を増やすか、現地講座を 2 回するなど対策が必要である。「キャリアアップ講座」については出願 7 科目中 6 科目が京都外国語大学提

供の語学講座であり、その他の資格系科目には出願者がいない状況である。

(9) 各キャンパスへの出願

各大学で開講される科目をオンキャンパス、キャンパスプラザ京都で開講される科目をプラザ科目と区分してみると、オンキャンパス科目は 275 科目提供のうち、118 科目 (42.9%) に出願があり、プラザ科目は 98 科目中、50 科目 (51.0%) に出願があった。

(10) 「京都学講座」出願状況

大学コンソーシアム京都が唯一提供する京都学講座「京を旅する」は 116 名 (昨年度 101 名) が出願をしている。京都学講座は 5 月から 12 月 (8、9 月を除く) まで座学 10 回、実施講座 2 回で構成しているが、実地講座への参加希望は例年多いため、座学と実地講座が連動したプログラム構成への転換も視野に入れて検討したい。

(11) 各大学への出願状況

京カレッジとしての開講 373 科目のうち、出願があったのは 172 科目で出願率は 46.1% であった。年度を通して出願がなかったのは 3 大学・2 短期大学であった。

以 上

資料 6

2015 年度京カレッジ「京都力養成コース」の採択結果について（報告）

このことについて、2015 年度の京カレッジ京都力養成コースを募集したところ、7 大学 1 団体から 9 件の応募プログラムがあった。第 2 回京カレッジ企画検討会議（2014 年 11 月 6 日開催）において採択審査を行ったところ、下記のとおり採択が決定したので報告する。

なお、2015 年度京カレッジ京都力養成コースは今回採択した 9 件に加え、大学コンソーシアム京都内に「京都学企画検討委員会」を設けて企画している「京都学講座」を加えた 10 講座を開設する。

記

《2015 年度京カレッジ「京都力養成コースプログラム」採択一覧》

大学名	区分	科目名
同志社大学	入門	「京都の歴史」基礎講座
放送大学	入門	麴のすべて～京の味噌を考える
大谷大学	入門	『平家物語』の京都
平安女学院大学	PBL	表現力を磨いて京都から新たな文化発信を② 詩×アート／観光×俳句
京都外国語大学	PBL	京のまちなかミュージアム講座 ～まちづくり学芸員を目指す
龍谷大学	入門	祇園祭と京都
龍谷大学	入門	京都の産業・企業の経営に学ぶ ～近代京都産業の源流：島津製作所の経営を学ぶ
京都産業大学	入門	京都文化の広がり ～多様な資料と手法による「比較」から
京都・大学ミュージアム連携 （代表校：京都工芸繊維大学）	入門	大学が育んだ京都 ～京都・大学ミュージアム発の「京都力」

以 上

2015 年度単位互換・京カレッジ

シラバス作成のお願いと注意事項

シラバス作成のお願い

1. 科目のご提供に関するお願い

2015 年度も単位互換・京カレッジ事業を実施するにあたり、各大学へ科目のご提供をお願いしたいと考えております。ぜひとも京都地域の大学生、社会人にとって魅力のある科目をご提供いただきますよう、お願いいたします。

シラバス情報の登録期間は、次の通りです。単位互換・京カレッジ総合教務システム「e 京都ラーニング」(<https://el.consortium.or.jp/>) からご登録ください。

シラバス情報登録期間：2014 年 12 月 2 日（火）～2015 年 1 月 23 日（金）【厳 守】

※上記期間以降のシラバス情報の訂正・追加等は大学コンソーシアム京都が行いますので変更の場合は必ずご連絡ください。

※校正作業は以下のとおりいたします。

1. 「単位互換＋京カレッジの両方に提供の科目」または「京カレッジのみに提供の科目」
『京カレッジ生募集ガイド』作成における校正作業において、訂正・追加等を行います。
日程、方法等の詳細については、後日メールにて連絡いたします。

2. 「単位互換のみに提供の科目」

シラバス登録期間以降の追加・訂正等は、文書にて大学コンソーシアム京都にご報告ください。締切は 2 月 19 日（木） まで。詳細は後日メールにて連絡いたします。

(1) 単位互換科目について

1	大学の正規科目のうち、特色のある科目をできる限りご提供ください。（とくに例年、単位互換出願者が多い科目は、継続のご提供をご検討ください。）
2	他大学生にとって広く関心の持てるテーマの場合は、ぜひとも新規にご提供ください。

(2) 京カレッジ科目のご提供

1	『大学講義』は、 <u>単位互換に提供いただいている科目かどうかに関係なく、開講時間帯等に配慮し、社会人が興味・関心を持ち得る科目をご提供ください。</u>
2	『大学講義』以外の科目では、受講料が安価で、手軽に教養を育むことのできる講座へのニーズが高くなっています。「京都」「歴史」「文化」「芸術」「仏教」「健康」等をテーマとした一般教養講座に人気があります。
3	社会科学系（経済や政治）に科目過多が見られます。出願のなかった科目の見直しを行っていただき、大学の特色ある科目・講座をご提供ください。

シラバス入力にあたっての注意事項

シラバスを作成するにあたり、次年度から実施する変更点ならびに総合教務システム「e 京都ラーニング」に入力いただく際の注意事項をまとめてあります。

なお、シラバス入力方法につきましては「e 京都ラーニング 教務用マニュアル」を参照ください。教職員向けファイル管理システムよりダウンロードできます。

主な入力項目内容

1. テーマ設定について【共通】

2015 年度単位互換制度・京カレッジにおけるテーマ設定は変更いたしません。以下のリスト内よりご選択ください。

なお、テーマの選択は必ず科目担当者が行ってください。事務担当者におかれましては、科目担当者にご説明いただきますようお願いいたします。テーマ区分を変更した方がよいと判断した場合は大学コンソーシアム京都から変更をお願いすることもあります。

【単位互換・京カレッジ共通】

A. ^{みやこ} 京都を探る	科目のメインに「京都」が関わる内容。多面的なアプローチによる京都学的なもの。
B. 歴史と文化に触れる	科目のメインに「歴史」や「文化」が関わる内容。
C. 美の世界に触れる	美術史、美術品、絵画、工芸品等、科目のメインに「美」「芸術」というものが関わる内容。音楽、美容、精神面での美も含む。
D. 文学の世界に触れる	文学、文学史、作家（作者）、古典等、科目のメインに「文学」が関わる内容。
E. ことばの魅力を知る	言語、ことば、外国語、コミュニケーション等、科目のメインに「ことば」を連想できるものが関わる内容。
F. いのちと人間を考える	生命、いのち、個人が生きること、個人の生き方や生き様、人間、人間性等、科目のメインに「いのちと人間を考える」といったものが関わる内容。
G. 教育とは…何だろう	教育学、教職免許、学ぶこと、人が育つということ、教えるということ、学校等、科目のメインに「教育とは何か」を考えるようなものが関わる内容。
H. 自然に学ぶ	科目のメインに「自然」というものが関わる内容。
I. 環境とくらしを考える	環境学、環境、人々のくらし、過去の人々のくらし、技術と環境等、科目のメインに「環境とくらし」「環境と人間」を考えるようなものが関わる内容。
J. 現代社会を知る・考える	現代社会の問題点、社会現象、政治や経済の動向、法・経済・労働、国際関係等、多様なアプローチによる「現代社会」に関わる内容。

【京カレッジのみ】

K. 市民教養講座	各大学・短期大学が実施している課外講座のうち、「キャリアアップ講座」「京都力養成コース」に該当しない科目は、このテーマをご選択ください。
L. キャリアアップ講座	各大学・短期大学が実施している課外講座のうち、資格取得（または特定の試験の合格）を目的として設置する科目、キャリアアップを目指す科目、語学系科目は、すべてこのテーマをご選択ください。
M. 京都力養成コース	京都地域の人材育成に資するプログラムとして「京カレッジ企画検討委員会」で承認された科目はこのテーマをご選択ください。

T. 「e 京都ラーニング WG」、S. 「職員研修」及び X. 「その他」は選択しないでください。

2. 履修対象大学選択について【共通】

単位互換科目のみの場合は、「対象大学入力支援」ボックスの「単位互換」、京カレッジ科目のみの場合は「京カレッジ」、両方に提供される科目については「単位互換／京カレッジ」を選択してください。自動的に対象大学が表示されます。

3. 開講期間の入力について【共通】

具体的な日程、講時（時間帯を含む）を入力サンプルに従って詳細に入力してください。ブラザ科目における開講期間は「学年暦（ブラザ科目）」に沿って以下の通りとします。開講期間以外の期間設定はできません。2015 年度は 12 月 23 日（水）～1 月 5 日（火） が講義休止期間となっていますので、ご注意ください。

e ラーニング科目は履修可否決定後（2015 年度は 4 月 17 日（金）以降）に開始日を設定してください。また、オンキャンパス科目には自大学の学年暦に沿って期間設定をお願いします。

【ブラザ科目開講期間の設定】

曜日	期 間	開 始 日		終 了 日	
火	通 年	2015 年 4 月 7 日	か ら	2016 年 1 月 19 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 21 日	
	後期（秋学期）	2015 年 9 月 29 日	か ら	2016 年 1 月 19 日	
水	通 年	2015 年 4 月 8 日	か ら	2016 年 1 月 20 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 22 日	
	後期（秋学期）	2015 年 9 月 30 日	か ら	2016 年 1 月 20 日	
木	通 年	2015 年 4 月 9 日	か ら	2016 年 1 月 21 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 16 日	
	後期（秋学期）	2015 年 10 月 1 日	か ら	2016 年 1 月 21 日	
金	通 年	2015 年 4 月 10 日	か ら	2016 年 1 月 22 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 17 日	
	後期（秋学期）	2015 年 10 月 2 日	か ら	2016 年 1 月 22 日	
土	通 年	2015 年 4 月 11 日	か ら	2016 年 1 月 16 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 18 日	
	後期（秋学期）	2015 年 9 月 26 日	か ら	2016 年 1 月 16 日	
日	通 年	2015 年 4 月 12 日	か ら	2016 年 1 月 17 日	ま で
	前期（春学期）			2015 年 7 月 19 日	
	後期（秋学期）	2015 年 9 月 27 日	か ら	2016 年 1 月 17 日	

＜注意事項＞週 2 回以上開講している科目は、最初の日から最後の日までをご選択ください。

5. 開講曜日・講時の入力について【共通】

開講曜日・講時を選択する欄については、以下を基準にしてください。

ブラザ科目	ブラザ科目の時間割に沿って選択をしてください。
オンキャンパス科目	各大学の時間割に沿って選択をしてください。

※10 講時以降の科目については、「10 講時」にチェックしてください。

※選択できる講時は 1 項目となります。2 講時にまたがる講義については、開始講時を選んでいただき、開講期間などに詳細を記載するようにしてください。

※開講期間に入力した曜日・講時と開講曜日・講時のチェックが一致しているかご確認
いただきますようお願いします。

【プラザ科目時間割】

講時	時 間
1	9:00 ~ 10:30
2	10:50 ~ 12:20
3	12:40 ~ 14:10
4	14:30 ~ 16:00
5	16:20 ~ 17:50
6	18:10 ~ 19:40
7	20:00 ~ 21:30

6. 授業形式選択について【共通】

授業形式については、以下の 5 項目からの選択となっております。

対面授業（プラザ）	キャンパスプラザ京都での授業
対面授業（オンキャンパス）	科目開設大学での授業
VOD	デジタルコンテンツでの授業
遠隔授業	遠隔地で講義をテレビ会議システムで授業
ブレンディッド	VODと対面授業の両方を含んだ授業

※キャンパスプラザ京都 6 階共同サテライト教室で行う授業は「オンキャンパス科目」扱いとなります。

7. その他特記事項について【共通】

その他特記事項には、以下の例を参考に受講にあたっての注意点を記載してください。

	ケース	『その他特記事項』に以下を記載
①	科目名称を変更	「過去に〇〇〇（科目名）を受講した学生は、同一科目のため登録できません。」
②	同一科目を前期と後期別で開講	「前期に〇〇〇（科目名）を受講した学生は、同一科目のため後期は履修できません。」
③	遠隔講義を開講	「受講場所は以下の場所となります。〇〇大学、〇〇大学・・・なお、受講場所に所属大学がない場合は、キャンパスプラザ京都で受講することができます。」

8. 講義スケジュール入力について【共通】

講義スケジュールについては、15 回記載できるフォーマットをあらかじめ準備しております。15 回以下の科目については、残りのフォーマットを削除いただきご記入ください。なお、シラバス形式統一のため記載の回数表示の変更はなるべくお避けください。

また、プラザ科目につきましては教室配当の際に、講義スケジュール欄に記載していただいた内容で教室調整をいたしますので、日時及びキャンパスプラザ以外を使用される等について詳しく記載していただきます様お願いします。

9. 掲載期間、出願期間、出願期間表示設定について【共通】

上記項目は以下の通り統一してください（前期登録に対応しています。）。

掲載期間	2015-03-9～2016-03-31（初期設定をしますので入力の必要はありません）
出願期間	2015-03-26～2015-04-9
出願期間表示設定	表示しない（初期設定どおり）
承認結果公開日	2015-04-17

変更点ならびに継続的依頼事項**1. 低年次生受講推奨科目について【単位互換】**

「低年次生受講推奨科目」について、提供いただく科目を低年次生受講推奨科目とする場合は、該当する推奨分野を財団までご連絡ください。なお、開講時期は「夏期集中」、「春・秋学期の土曜日」のいずれかとなっております（キャリア科目、外国語科目、接続・導入教育科目）。

2. 1月23日以降の入力制限【共通】

2015年1月23日の締切後すぐに、「科目名」をキーとして2015年度単位互換・京カレッジ科目の科目番号付与作業を行います。それ以降は科目の追加及び科目名の変更が不可能となりますのでご注意ください。

なお、締切以降に詳細が決定する科目については、入力期間内に仮登録としてe京都ラーニングに入力し、科目ページ及び科目番号付与の確保を行った上で、財団に状況をお知らせください。

3. 開講しない科目について【共通】

前年度コピーされた科目情報で2015年度開講されない科目は、必ず削除してください。

4. 開講期間設定について【共通】

同項目は、受講生がe京都ラーニングにログインの後、履修科目のコースにアクセスができる期間です。授業によっては、期間中にコース内のコンテンツや電子媒体資料を活用する、また課題レポートの提出用として利用します。そのため課題提出期間を踏まえて「開講期間」欄の開始年月日と終了年月日をそれぞれ入力してください。

【お問い合わせ先】

「e京都ラーニング 教務用マニュアル」をご覧ください、ご不明な点は担当までご連絡ください。マニュアルは大学コンソーシアム京都ホームページ下部にある「教職員向けファイル管理システム」からダウンロードいただけます（ログインにはID・パスワードが必要です）。

【担当】 大学コンソーシアム京都 教育・施設管理事業部（生谷・前田・石垣）
単位互換 TEL. 075-353-9120 京カレッジ TEL. 075-353-9140
共通 E-MAIL : tg@consortium.or.jp

2015 年度単位互換・京カレッジに関する確認事項

2015 年度単位互換・京カレッジ開講に伴う事前準備やリーフレット、募集ガイド作成等
に關しまして、下記の点についての確認を担当者会議以降、改めてメールいたします。

つきましては、内容をご確認いただき、最新・正確な情報提供をお願いいたします。

なお、紙媒体に掲載する情報は、各大学の記載内容もご参考いただき、読みやすさに配
慮した工夫をお願いいたします。

	様式名	単位互換	京カレッジ
1	単位互換リーフレット・京カレッジ募集ガイド 送付部数希望調査表	*	*
2	各大学・短期大学 手続一覧（京カレッジ募集ガイド掲載用）		*
3	各大学・短期大学図書館利用一覧 変更連絡調査（京カレッジ募集ガイド掲載用）		*
4	各大学の独自の生涯学習講座 窓口部署調査（京カレッジ募集ガイド掲載用）		*
5	参加大学地図・連絡先一覧 変更有無調査	*	*

※確認事項の回答については、12 月 18 日（木）までにお送りいただく予定です。

以 上

2014（平成 26）年 11 月〇日

大学コンソーシアム京都加盟校
単位互換・京カレッジ事務担当者 各位

資料 8

公益財団法人大学コンソーシアム京都
（教育・施設管理事業部）

2015 年度単位互換・京カレッジ開講に伴う確認事項について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素から単位互換・京カレッジ
両事業の運営にご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、11 月 14 日開催の事務担当者会議でお願いいたしました標記の件につきまして、
下記のとおりご回答くださいますようお願いいたします。

記

【確認事項】

1. 単位互換リーフレット・京カレッジ募集ガイド送付部数希望調査【全大学対象】
 - ①添付エクセル表にて希望部数をお知らせください。単位互換リーフレット（A3/二つ折り/4 ページ）は 2 月上旬、京カレッジ募集ガイドは 3 月上旬の発送を予定しています。
 - ②添付エクセル表の送付先住所、送付部署に変更がある場合はお知らせください
2. 参加大学地図・連絡先一覧【全大学対象】
3. 各大学・短期大学 手続一覧【京カレッジ提供校のみ】
4. 各大学・短期大学図書館利用一覧【全大学対象】
5. 各大学の独自の生涯学習講座のご紹介【全大学対象】

※ 2～5 は、京カレッジ募集ガイド及び H P 等に掲載します。変更の有無にかかわらず添付の「回答票」をご提出ください。修正のある場合は、回答票にお書きいただくか、今年度の記載内容に朱書き訂正の上、ご提出願います。

※ 5 について、各大学における情報の統一感を図るため、新たに原稿をご提出くださいますようご協力をお願いいたします（生涯学習担当部署がある場合はご相談ください）。

【回答方法】

2014 年 12 月 18 日（木）までに回答票及び朱書き訂正した内容を、郵送・メール（PDF 添付等）・FAX にてご提出ください。

【お問い合わせ先】

大学コンソーシアム京都 単位互換・京カレッジ担当：生谷・前田・石垣
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内
TEL. 075-353-9140 FAX. 075-353-9121
E-MAIL : tg@consortium.or.jp

大学コンソーシアム京都 行き

(電子メール tg@consortium.or.jp FAX 番号 075-353-9121)

2015 年度単位互換・京カレッジ開講に伴う確認事項 回答票

大学名					
回答者情報	部署名				
	氏名				
	TEL				
	E-MAIL				
確認事項	修正有無	内容を変更する【変更内容を記入してください】			
<u>2. 参加大学地図・連絡先一覧</u>	有・無				
<u>3. 各大学・短期大学 手続一覧</u>	有・無				
<u>4. 各大学・短期大学図書館利用一覧</u>	有・無	閲覧 ○×	貸出 ○×	利用時間	備考
<u>5. 各大学の独自の生涯学習講座</u>	有・無	窓口			
		住所			
		TEL			
		FAX			
		E-MAIL			
		主な生涯学習事業 (100 字以内)			
		URL			

【2014 年 12 月 18 日（木）までに必ずご提出ください】

休学期間中の単位互換制度の活用について（案）

1. はじめに

財団における単位互換事業においては加盟大学との協定のもとに事業を推進している状況のなか、各国公私立大学長あてに出された「休学期間中に学生が他の大学で行った学修の単位認定について」（2012 年 3 月 28 日文部科学省通達）を受けて、休学中に受講等をした単位互換事業の他大学科目を含めた単位認定を検討する加盟大学も見受けられる状況である。所属学生の扱い、授業運営、成績評価および単位認定については大学の責任として判断をするものであり、財団が積極的に各加盟大学に対して、それらのあり方を制限することはできない。ただし、今後、これらの事例が増えてくることを踏まえて、財団としての方針の共有、ならびに、それにかかわる協定書等整備の発生に備えて、方向性を整理する。

2. 通達内容（文部科学省高等教育局大学振興課）

大学設置基準第 28 条の規定の趣旨を踏まえて、当該学生の所属大学において学則等を整備した上であれば、休学期間中に他大学で修得した単位について単位認定をすることができると整理されている。ただし、その上で（1）休学期間中に他大学で修得した単位の認定をする場合は手続き等を明確化の上、学生に公表することが必要である、（2）所属大学において授業計画や学習内容の事前の把握や必要な履修指導を行うこと等が望ましい、と留意事項に述べられている。

【休学期間中に他の大学で行った学修についての取扱い（通達 1.）】

学生が在学中に休学を認められ、他の大学で学修することは、従来どおり差し支えない。なお、この場合における他大学において修得した単位については、大学設置基準第 28 条の規定の趣旨を踏まえ、当該学生が在学する大学において、学則等を整備したうえで、当該大学において修得したものと認定することも差し支えない。ただし、当該休学期間を在学期間に参入するものではない。

【休学期間中に他の大学で修得した単位の取り扱いについて（通達 2.（1））】

現在、我が国の制度における単位の公的通用性や大学教育の豊富化、国際交流の促進を図る観点から、他の大学において修得した単位や大学以外の教育施設等における学修を当該大学において認定することが可能となっている（大学設置基準第 28 条、第 29 条）。これは、当該大学において学生が休学扱いになっているからといって、学生が他の大学で修得した単位等の通用性が失われるものではなく、当該単位等を当該大学の単位として認定するかどうかは当該大学の判断によるものである。よって、休学期間中であっても他の大学で修得した単位等の認定は可能である。大学設置基準第 30 条の入学前の既修得単位等の認定制度も、同様の趣旨で平成 3 年に創設されたものである。

3. 現行の「単位互換に関する包括協定書」等の改正について

単位互換事業において、各加盟大学と「単位互換に関する包括協定書」「単位互換に関する包括協定書についての覚書」「科目等履修生受入れについての申し合わせ」の3文書を取り交わしている。上述の文部科学省の通達内容を踏まえて、休学期間中の単位互換制度活用において加盟校が運用することができるよう、次のとおり「単位互換に関する包括協定書」等の改正を提案する。

(1) 「在学」生の扱いについて

在学生の扱いについて、各加盟大学によって扱いや解釈が異なることが確認された。学生が在学、休学にかかわらず、単位互換制度を活用することを選択できるようにするため、「別紙1」の通り、受入れに関する条項を修正する。

(2) 休学期間中に他の大学で修得した単位の取り扱い

加盟大学が、休学期間中の学生が単位互換科目で修得した単位を認定できるようにするため、「別紙1」の通り、「単位互換に関する包括協定書についての覚書」に、「休学期間中に単位互換科目で修得した単位の認定」等の項を新たに起こす。

4. 意見集約のご依頼について

上述の通り、「単位互換に関する包括協定書」と「単位互換に関する包括協定書についての覚書」の改正案を提案する。ついては、協定書等の改正案を、各加盟大学での運用に適用したものにするため、意見集約を行う。

<意見集約の依頼概要>

対象となる協定等：「単位互換に関する包括協定書」

「科目等履修生受入れについての申し合わせ」

その他、今次の提案に関するご質問等について

意見集約締切：2014年12月18日（木）

※フォーマットは別紙の通り。本会議終了後、別途担当者 ML を通じて周知する。

5. 今後のスケジュール（予定）

2014年11月14日	第2回単位互換・京カレッジ事業事務担当者会議
2014年12月18日	意見集約締切
2015年1月中旬	加盟大学への回答
2015年3月	各大学協定書等配付

以 上

別紙

大学コンソーシアム京都 行き

(電子メール tg@consortium.or.jp FAX 番号 075-353-9121)

休学期間中の単位互換制度の活用について

大学名		
回答部署		
担当者		
連絡先	TEL	
	E-MAIL	
「単位互換に関する包括協定書」に関する意見		
「単位互換に関する包括協定書についての覚書」に関する意見		
「科目等履修生受入れについての申し合わせ」に関する意見		
その他、「休学期間中の単位互換制度の活用」についてのご意見等		

【2014 年 12 月 18 日（木）までにご提出ください】

資料9 別紙

単位互換に関する包括協定書 新旧対照表

新	旧
(受入れ) 第1条 この協定に参加する大学・短期大学に<u>在学もしくは在籍する</u>学生が、他の大学が指定する授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、科目を開設する大学の学長は当該学生を受け入れることができる	(受入れ) 第1条 この協定に参加する大学・短期大学に在学する学生が、他の大学が指定する授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、科目を開設する大学の学長は当該学生を受け入れることができる。

単位互換に関する包括協定書についての覚書 新旧対照表

新	旧
4) 受入れ手続 ①他の大学・短期大学に単位互換履修生として出願を希望する学生は、定められた期日までに 出願票を学生の所属する大学を通じて、受講を希望する科目開設大学に提出するものとする。 ②科目開設大学は、必要に応じて選考を行い受入れ学生を決定する。 ③科目開設大学は、選考の結果を受講を希望する学生の所属する大学を通して当該学生に通知する。 ④<u>在学中に休学を認められた学生を単位互換履修生とする場合は、当該学生の所属する大学において学則等を整備し、必要な手続を行うものとする。</u>	4) 受入れ手続 ①他の大学・短期大学に単位互換履修生として出願を希望する学生は、定められた期日までに 出願票を学生の所属する大学を通じて、受講を希望する科目開設大学に提出するものとする。 ②科目開設大学は、必要に応じて選考を行い受入れ学生を決定する。 ③科目開設大学は、選考の結果を受講を希望する学生の所属する大学を通して当該学生に通知する。

以 上

各国私立大学長 殿

文部科学省高等教育局大学振興課

休学期間中に学生が他の大学で行った学修の単位認定について

昨今の、大学間連携の必要性が高まっていることや大学の国際化を進める流れの中で、他の大学（短期大学及び外国の大学、短期大学を含む。以下同じ。）との大学間交流・連携をより一層促進する観点から、休学期間中に学生が他の大学で行った学修についての取扱いを下記のとおりとすることが適当と考えられますので、改めて十分御留意いただき、各大学において適切に対応いただくようお願いいたします。

記

1. 休学期間中に他の大学で行った学修についての取扱い

学生が在学中に休学を認められ、他の大学で学修することは、従来どおり差し支えない。なお、この場合における他大学において修得した単位については、大学設置基準第 28 条の規定の趣旨を踏まえ、当該学生が在学する大学において、学則等を整備した上で、当該大学において修得したものと認定することも差し支えない。ただし、当該休学期間を在学期間に算入するものではない。

2. 留意事項

(1) 休学期間中に他の大学で修得した単位の取扱いについて

現在、我が国の制度における単位の公的通用性や高等教育の豊富化、国際交流の促進を図る観点から、他の大学において修得した単位や大学以外の教育施設等における学修を当該大学において認定することが可能となっている（大学設置基準第 28 条、第 29 条）。これは、当該大学において学生が休学扱いになっているからといって、学生が他の大学で修得した単位等の通用性が失われるものではなく、当該単位等を当該大学の単位として認定するかどうかは当該大学の判断によるものである。よって、休学期間中であっても他の大学で修得した単位等の認定は可能である。大学設置基準第 30 条の入学前の既修得単位等の認定制度も、同様の趣旨で平成 3 年に創設されたものである。

(2) 休学期間中の学生への配慮

学生が、休学期間中に他の大学で行った学修について、その学修を学生が所属する大学において修得したものとみなす取扱いを講じる際には、その学修について、授業計画や学修内容の事前の把握や、必要な履修指導を行うこと等が望ましい。

また、休学期間中の他の大学において修得した単位について認定をする場合には、その手続き等を明確にし、学生に公表することが必要である。

(3) 「留学」の促進

昭和 47 年の大学設置基準の一部を改正する省令等においては、学生が外国の大学へ留学する場合、当該学生は休学扱いとするのではなく留学扱いとして、その具体的な取扱いについては、教授会の議を経て学長が定めることとしている。学生が外国の大学で学ぶ場合は、学修内容の質保証の観点から、当該学生が在学する大学と外国の大学との間での協力関係の下で学びが保証されることが重要であり、今後とも、この趣旨を踏まえた各大学での対応をお願いしたい。

特に、「やむを得ない事情により、外国の大学と事前の協議を行なうことが困難な場合には、当該大学との事前協議を欠くこともさしつかえない」としており、協定等を締結していない大学であっても、学生の円滑な単位の修得に資するよう、各大学の学位授与の方針を踏まえ、留学という取扱いが可能なよう配慮することが望ましい。

○本件に関する連絡先

高等教育局大学振興課法規係

T E L : 03-5253-4111（内線：2493） F A X : 03-6734-3387

2015 年度京カレッジへの大学科目・公開講座の提供について（依頼）

京都市・大学コンソーシアム京都の生涯学習事業として展開している京カレッジの 2015 年度開講にあたり、貴大学の科目及び公開講座につきまして、下記の点にご留意いただき、引き続きご提供くださいますようお願いいたします。

記

<京カレッジについて>

一般市民を対象に、大学の知的資源を開放しようと 1997 年度、単位互換制度を活用した「シティーカレッジ」としてスタートし、2007 年度から現名称となっています。年間で 30 以上の大学から 300 もの科目・公開講座が提供されていますが、近年は、大学科目への出願率が 40%代であり、京カレッジにおける提供科目数の整理が必要な時期にきています。出願者は 60 代を中心としたシニア層が多い傾向にあり、この世代の興味関心ある科目や講座を提供いただけると出願率が伸びると想定されます。

<提供科目・公開講座>

京カレッジへは以下の区分で科目や公開講座をご提供ください。

- 大学講義・・・科目等履修生・聴講生制度の活用
- 市民教養講座・・・歴史や文化、芸術など教養的な公開講座を提供
- キャリアアップ講座・・・語学や資格対策講座を提供
- 京都力養成コース・・・京都をより深く学べる講座を提供（2015 年度の申請は終了）

<科目・公開講座の提供にあたって>

社会科学系の科目（「現代社会を知る・考える」）が科目分類で一番多く提供されていますが、出願率が低い傾向にあります。また、京都学や文化、歴史、芸術、宗教学といった分野（「京を探る」「歴史と文化に触れる」「美の世界に触れる」）に人気が集まる傾向にあります。

学部等へ講座の提供を依頼される際にはそのことを念頭にご依頼いただき、貴学ならではの特色ある科目・公開講座をご提供くださいますようお願いいたします。

なお、現在ご提供いただいていない加盟校におかれましても科目の提供についてご検討くださいますようお願いいたします。

以 上

【問い合わせ先】

大学コンソーシアム京都 京カレッジ担当：生谷・石垣・前田
〒600-8216 京都市下京区西洞院塩小路下ル キャンパスプラザ京都
Tel. 075-353-9140 Fax. 075-353-9121 e-Mail: tg@consortium.or.jp

2014（平成 26）年 11 月 14 日

大学コンソーシアム京都加盟校 各位

公益財団法人大学コンソーシアム京都
（教育・施設管理事業部）

第 4 ステージ期における生涯学習事業のあり方への意見募集について

公益財団法人大学コンソーシアム京都では、中期計画「第 4 ステージプラン（2014～2018 年）」において、京都市との主催事業である京カレッジについて、「提供科目の整理」「他機関の生涯学習事業との連携による広報体制の確立」を課題とし、2014 年度に新たに構成した「教育事業企画検討委員会」（委員長・山田礼子教育施設管理部長、同志社大学教授）において、審議を進めてきたところです。

つきましては、本件に関し、これまでの委員会における審議のまとめ案等について各大学から意見募集を実施いたしますので、ご意見等ございましたら下記の要領にてご提出くださいますようお願いいたします。

記

1. 案の具体的な内容

→【添付資料】参照

2. 意見の提出方法

（1）提出方法 添付の所定用紙に意見を記入の上、提出してください。

（2）提出手段 電子メール・FAX

（3）提出期限 2014 年 12 月 18 日（木）必着

（4）宛先 大学コンソーシアム京都 京カレッジ担当 宛

電子メール tg@consortium.or.jp

FAX 番号 075-353-9121

以 上

【本件に関するお問い合わせ】

大学コンソーシアム京都 京カレッジ担当：生谷・石垣・前田

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

キャンパスプラザ京都内

TEL. 075-353-9140 FAX. 075-353-9121

電子メール tg@consortium.or.jp

大学コンソーシアム京都 行き

(電子メール tg@consortium.or.jp FAX 番号 075-353-9121)

第 4 ステージ期における生涯学習事業のあり方への意見

大学名		
回答部署		
担当者		
連絡先	TEL	
	E-MAIL	

新たな「大学講義」と「市民教養講座」の開講内容（テーマ分類の再編）への意見
※単位互換のテーマ分類もこれに応じて変更となります。

市民教養講座開設補助金の新設への意見

京カレッジ新会員制度への意見

生涯学習ワーキンググループへの意見（グループ参加希望の場合はここにお書きください）

その他事業へのご意見等

【2014 年 12 月 18 日（木）までにご提出ください】

第4ステージにおける生涯学習事業(京カレッジ)の展開について(概要)

＜京カレッジ5つの方向性(2016年度以降)＞ ※(共通認識)京カレッジ生=60代以上が主流(科目提供はシニア層を意図)

1. 大学講義(正規科目)のテーマ別科目分類を再編し、科目を整理 → 魅力ある科目の提供(量から質へ)
2. 公開講座を「市民教養講座」として再編し、加盟校のPRの場を提供 → 公開講座の導入部として活用
3. 「市民教養講座開設補助金」を新設し、提供講座の特色化を図る → 学習ニーズに応じた講座を提供
4. 京カレッジ会員を出願者全員に拡大し、大学での多様な学習環境を提供 → 新たな出願者の掘り起こし
5. 生涯学習WGで検討し、スケールメリットを生かした広報機会を創出 → 生涯学習イベントでの連携PR

京カレッジは、生涯学習社会の多様化するニーズに応えるため、加盟校が有する専門性や学術性の高い大学講義を提供するとともに、社会貢献・地域貢献の一環として、行政や産業化とも連携しながら、大学の特色を生かした公開講座を提供することで、地域力・文化力の発展に寄与する。

【現状と課題】

○大学講義

- ・2015年度以降テーマ別科目分類を10年も見直していない
- ・出願のある科目は4割という状況(6割の科目に出願なし)
- ・単位互換科目をそのまま提供しており、出願者層(主にシニア層)に応じた科目選択が必ずしも行われていない
- ・社会科学系の科目が多く、その分類に過多が生じている
- ・財団、加盟校とも提供科目のマネジメントをこなせていない

○公開講座

- ・市民教養講座=京カレッジの特色化が図られていない
- ・キャリアアップ講座=出願率の低迷(2割程度)
- ・京都市力養成コース=出願数多く、受講できないとクレーム

○京カレッジ会員

- ・受講否であれば学びの機会消失(図書館利用希望あり)
- ・受講可否の後、会員証を発行するため送付が遅延。問い合わせも多く、写真の返却など事務負担に

○加盟校の生涯学習事業での連携

- ・各大学が広報を単独で実施し、費用負担に

【解決に向けて】

○大学講義の再編

- ・各大学の特色に合わせたテーマ別科目分類に再編し、大学講義科目の刷新を図る。
- ・学習ニーズ(主にシニア層)に応じた科目の提供を求め、加盟校から特色ある科目の提供を呼びかける
- ・社会科学系分野の科目を制限し、科目の過多を防ぐ
- ・出願の状況を確認し、科目のスクラップ&ビルドを図る

○公開講座の再編(市民教養講座への変更と2コース制)

- ・市民教養講座に教養コースと京都市力養成コースを設け、現状需要の少ない「キャリアアップ講座」を解消する
- ・「市民教養講座開設補助金」を設け、加盟校のPRとなる講座や地域力・文化力向上につながる講座開設を支援

○京カレッジ生出願者の会員化

- ・出願者全員を京カレッジ生として取り扱う
- ・新会員の掘り起こしを行い、大学で学ぶ意識を醸成する

○加盟校の生涯学習事業での連携

- ・生涯学習PRの合同開催などでシナジー効果に期待

新たな「大学講義」と「市民教養講座」の開講内容

新分類		学問分野
大学講義	A 京(みやこ)を学ぶ	京の歴史、伝統文化、産業、地域、観光など京都を多様な角度から学ぶ科目群
	B 歴史を学ぶ	日本史、世界史、考古学、地史学、民俗学、郷土史、古文書など歴史観を養う科目群
	C 文化・芸術を学ぶ	文学、音楽、デザイン、美術、絵画、工芸、芸能など文化・芸術に親しむ科目群
	D 言語・表現を学ぶ	言語学、外国語、演劇、コミュニケーションなど表現を身に付ける学ぶ科目群
	E 人間観を学ぶ	心理、教育、福祉、宗教学、哲学、倫理、思想など人の生き方を考える科目群
	F 生活・健康・スポーツを学ぶ	衣食住、くらし、生命医学、看護、健康、スポーツなどライフスタイルに必要な知識を得る科目群
	G 自然・環境を学ぶ	環境学、地理学、農学、天文学、物理学、生物学、生態学など自然界に触れる科目群
	H 現代社会を学ぶ	法学、経済学、経営学、政治学、社会学、科学技術、情報学など多角な観点から現代社会を観察する科目群
	I 国際関係を学ぶ	法、政治、教育、福祉、研修セミナーなどを通じて世界情勢を知り、グローバルな視点を養う科目群
	J 教養コース	教養を向上させる機会として、大学が提供する公開講座やシンポジウム群
市民教養講座		歴史・文化・芸術等の宝庫である京都をフィールドに、蓄積された研究から京都をより深く学べる、特色あるプログラム群

※大学講義の特色化にあたっては、単位互換制度の「プラザ推奨科目」の補助金制度活用を推奨する。

【市民教養講座開設補助金】

- ＜支給対象＞

○教養コース(入門科目はキャンパスプラザ講座のみ)

入門講座・・・建学の精神を生かした講座、大学間連携、産官学連携で実施する講座、歴史等の一般教養講座

PBL講座・・・地域ボランディア、コーディネーターの育成、人材認証制度や履修証明制度を活用した講座

○京都力養成コース(キャンパスプラザ講座・オンキャンパス講座)

入門講座・・・学習や鑑賞活動を通じて京都活性化のきっかけづくりとなる講座

PBL講座・・・フィールド調査や企画立案実習を通して地域に貢献する講座

◆支給金額(教養コース・京都力養成コース)

コーディネート料 一律10万円プラス

入門講座 講師料34,111円×コマ数(上限8コマ)

PBL講座 講師料34,111円×コマ数(上限15コマ)

※講座終了後に支給、1大学あたり申請は2件まで(採択審査有)

【新会員制度】

- ＜京カレッジ生に提供する特典＞

○京カレッジ会員証の無料発行

○加盟校の図書館利用

○京都・大学ミュージアム連携加盟館の入館割引(打診予定)

○募集ガイドの次年度無料送付(海外除く)

○キャンパスプラザ京都1F喫茶店学割利用
- ※前倒しで2015年度に先行実施

【加盟校の生涯学習事業での連携】

生涯学習総合イベントの開催

(具体的な内容は生涯学習WGを構成し、検討予定)

第 4 ステージにおける生涯学習事業（京カレッジ）の展開について（提案）

京カレッジは、1997 年度から実施する単位互換事業を活用し、大学の正規科目を一般市民に開放する生涯学習事業「シティーカレッジ」としてスタートした。2007 年度に京カレッジと名称変更し、現在に至っている。近年では、約 400 もの提供科目に延べ約 1,000 人の出願者数を獲得しており、生涯学習事業として一定の成果は得ているものの、ここ数年でみると、出願者数の減少傾向や出願がない科目が大半を占めるなど、制度の見直しが求められている。

公益財団法人大学コンソーシアム京都（以下「財団」という。）の中期計画にあたる「第 4 ステージプラン（2014～2018 年）」では、京都市との主催事業である京カレッジにおいて、「提供科目の整理」「他機関の生涯学習事業との連携による広報体制の確立」が課題としてあげられている。このことについては、2014 年度から新たに設置した教育事業企画検討委員会において具体策の検討を重ねてきた。また、京カレッジ企画検討会議における意見交換や財団加盟校の京カレッジ事務担当を通じて「京カレッジ・生涯学習に関するアンケート」を実施するなど現状の把握を行ってきた。

については、これまでの検討内容や京カレッジの開講状況のデータを踏まえ、2015 年度以降の京カレッジのあり方について、下記のとおり提案する。

記

1. 提供科目の整理

教育事業企画検討委員会では当初、キャンパスプラザ科目で開講する「プラザ科目」のみを京カレッジとして扱い、科目開設大学で行われる「オンキャンパス科目」は科目等履修制度として紹介することで京カレッジから切り離す方向で検討を行ってきた。しかし、今回実施したアンケートでは、「オンキャンパス科目」を京カレッジとして提供する意義を感じるかとの問いに「感じる」と回答したのが 16 校あり（資料 1 参照）、特に芸術系の大学では、大学の施設設備を使うからこそ提供できる科目があるとの意見があった。そのため、そのような特色を持つ「オンキャンパス科目」を一律で京カレッジから外すことは不適切であるとの判断に至った。

京カレッジはそもそもこれまで、各大学・短期大学から提供を受ける科目をそのまま受け入れており、むしろ提供科目数の増加を歓迎してきた。しかし、科目数の増加は多種多様な科目を提供できる一方で、出願の無い科目を生み出すという課題を浮き彫りにしてきた。科目の整理はあくまでも専らに科目数を削減するのではなく、出願の無い科目をスクラップし、より魅力ある科目をビルドすることにある。つまりは、提供科目を“数”でみてきた時代から、社会人ニーズに合った科目の“質”を担保する時期への転換期に来ているといえる。

そのためには、これまで通り加盟校からの提供科目をそのまま受け入れるのではなく、財団から改めて加盟校に特色ある科目を提供してもらえることを意識してもらうメッセージを送る必要がある。そこで、2015 年度以降の京カレッジでは次のことに取り組むことで改善を図る。

（1）テーマ別科目分類の再編成

1) 大学講義のテーマ再編成

京カレッジは加盟校の持つ大学の知を社会に還元することを目的としているため、「大学講義」が提供総科目の 8 割を占めている。ただ、科目への出願率は 40% 台で推移しており、6 割もの科目に出願がない状態が続いている。現在の大学講義の科目分類は、10 テーマ（A～J）に区分されているが、数科目から 100 科目以上とテーマごとの提供科目数にバラつきが

生じている（資料 2 参照）。特に「J 現代社会を知る・考える」は社会科学系の科目が集中し、提供科目数が唯一 100 を超えており、科目の集中が見られる。

これらの科目分類は、シティーカレッジ時代の 2005 年度に単位互換事業とともに現在の分類となって以来、現在まで変更されておらず、前述した提供科目数のバラつきも調整されてこなかった。近年、学部や学科の新設や改組など大学環境が大きく変化する中で、10 年も同じテーマ分類でこまできたことになる。さらには、京カレッジ提供大学の多くが出願者のいない科目の提供見直しを行っておらず、魅力ある目新しい科目が少なくなっていることも出願者離れの一因として考えられる。

そこで、新たな視野や学問分野を取り入れるため、科目の分類を再編成することで科目の整理を図ることとする。具体策としては、2015 年度以降の科目分類を、加盟校の学部や学科の開設状況を意識しながら、また、これまでの出願率の高いテーマ（受講ニーズ）を考慮に入れ、大学講義を 9 テーマ（A～I）に再編成する（表 1、資料 3 参照）。

今回の再編成は、科目の区分を改めることで、各大学に改めて大学の特色を踏まえた上で、「社会人や一般の市民に対して提供する」ことを意識してもらい、提供科目の整理を行ってもらうことを目的とする。なお、科目提供過多とならないように、適正規模を年間 300 程度の科目・講座として設定し、原則として大学講義は 1 テーマにつき 1 大学 10 科目までの提供上限を設けることで、テーマごとに科目過多にならないよう配慮する¹。

（表 1）大学講義テーマ再編成案

現行		再編案	
大学 講 義	A 京都を探る	大学 講 義	A 京を学ぶ
	B 歴史と文化に触れる		B 歴史を学ぶ
	C 美の世界に触れる		C 文化・芸術を学ぶ
	D 文学の世界に触れる		D ことばを学ぶ
	E ことばの魅力を知る		E 人間観を学ぶ
	F いのちと人間を考える		F 生活・健康・スポーツを学ぶ
	G 教育とは…何だろう		G 自然・環境を学ぶ
	H 自然に学ぶ		H 現代日本を学ぶ
	I 環境と暮らしを考える		I 国際関係を学ぶ
	J 現代社会を知る・考える		

2) 公開講座群の再編成

京カレッジは「大学講義」のほか、「市民教養講座（K）」「キャリアアップ講座（L）」「京都力養成コース（M）」の 3 区分を設けている。これらは 2005 年度から、大学講義と「大学公開講座」「大学課外講座（キャリア支援講座）」「プラザカレッジ講座」に区分され、2007 年度から現在の構成となっている。

近年、大学講義への出願率が低迷する一方で、出願が増えてきているのが市民教養講座や京都力養成コースである。大学の講義までは敷居が高くとも、公開講座であれば気軽に受けられるのがその人気の理由のひとつとして考えられる。特に京都力養成コースはここ 3 年で 8 講座を提供しているが、受講生へのアンケートや出願者数を見ると人気が高く、さらなる充実を求める声は多い。

市民教養講座は 2012 年度に 49 講座の提供があったが、2013 年度は 28 講座、2014 年度

¹ 2014 年度の大学講義で 1 テーマに 10 科目以上提供しているのは「美の世界に触れる」の京都市立芸術（12）と「現代社会を知る・考える」の京都産業（19）、同志社（26）、立命館（21）、龍谷（16）の 5 大学である。

には 13 講座と減少しているものの、出願率は高い（資料 2 参照）。しかしながら、現在の市民教養講座は大学の公開講座やシンポジウムへのいわば「相乗り」であり、今後の講座の増加は見込めていない状況でもある。今後は社会ニーズに応じた講座の充実が課題といえる。

公開講座の充実について、加盟校に行ったアンケートでは、どのような支援があると公開講座を開設しやすいかとの問いに、「講師料の負担」が 17 校、「教室使用料の免除」と「科目開設補助金の授与」に 13 校が望むと回答している（資料 1 参照）。そこで、京カレッジ生を対象に、キャンパスプラザ京都で特色ある講座を開講する加盟校について、財団が科目開設を支援する科目開設補助金制度を新設することで、今後の講座の特色化や受講ニーズに合わせた講座内容の充実を図る。

なお、京都力養成コースにおいては、「科目開設補助金」としてコーディネート料（10 万円）と講師料（1 コマ 34,111 円※コマ数の上限設定あり）を講座提供大学に支給しており、開講講座の確保に一定の成果を上げている。この制度を「市民教養講座開設補助金」として新たに設定し、これまでの市民教養講座を「教養コース」と「京都力養成コース」の 2 コースに再編する（表 2、資料 3 参照）。

（表 2）公開講座テーマ再編成案

現行		再編案		
公開 講座	K 市民教養講座	市民 教養 講座	J 教養コース	従来型
	L キャリアアップ講座			補助金型
	M 京都力養成コース		K 京都力養成コース	

＜キャリアアップ講座の除外について＞

キャリアアップ講座はここ 3 年で 87 講座から 44 講座と提供科目数が半減している。2014 年度前期段階の出願率は約 27% であり、44 講座中 32 講座に出願がなかった（資料 4 参照）。現在、提供のある講座は語学や資格対策講座であるが²、これらの講座のほとんどが、開講大学でも受講受付を行っており、もともとある講座の 5 名程度の定員を京カレッジ生に開放してもらっているのが現状である。

京カレッジ生の受講層は 60 代の層が最も多く、市民教養講座や京都力養成コースへの出願率の高さからうかがえるように、知識や教養を深化させる講座を求める傾向にある。また、2012、2013 年度からの提供講座の減少は、「オンキャンパス科目」として提供されていた講座が 2014 年度に提供がなくなったことに理由があるが、実際は開講大学の窓口で申し込みば受講可能であり、講座の減少から不利益を被ったとの声は聞こえてこない。

キャリアアップ講座が設けられた当初（2007 年度）は若年者等のキャリア形成に資することを目的としており、現在の主な受講層である京カレッジ生の受講ニーズに必ずしも相応しているとは言えない。また、開講大学次第で科目の増減が行われる講座の開設は財団としても主体的にマネジメントを行うことが難しく、そのまま放置しておけば再び講座の乱立を招く事態も想定される。

なお、京カレッジとして提供を受けている「プラザ科目」では、財団が教室使用料を負担しており、京カレッジ生の出願がないにもかかわらず、費用を負担しているという問題点も生じている。これらのことを考慮にいと、キャリアアップ講座が京カレッジに必要な講座群であるとは言い難く、よって今回をもって京カレッジから除外する。ただし、新たな現役世代の社会人の学び直しプログラム（キャリアアップ）については、生涯学習の概念からは必要な観点であり、改めて WG を作るなどして検討を行う予定である。

これまでキャリアアップ講座として提供した講座を教養コースで提供できることも想定さ

² 提供大学は京都外国語(9)、立命館（立命館孔子学院 20）、京都学園(1)、京都産業(14)の 4 大学である。

れるため、講座過多を避けるために、教養コース従来型への講座提供は 1 大学につき 5 講座までと上限を設ける。

(2) 市民教養講座開設支援助成の新設

前述した市民教養講座の講座充実を目的に、「市民教養講座開設補助金（教養コース・京都力養成コース）」を新設する。

なお、財団の定款第 4 条には「大学と地域社会、行政及び産業界との連携等による生涯学習事業」を公益目的事業として掲げているが、これまでは積極的な連携が図られてきたとは言えない。そこで、これを機に、行政や産業界との結びつきを強め、生涯学習事業で地域の発展と活性化に努める。

市民教養講座開設補助金の運用については次のとおりとする。

◆市民教養講座開設補助金（教養コース・京都力養成コース）

A. 講座内容：《新規》「教養コース」対象（プラザ科目限定）

①教養を高める入門講座（4～8 コマで開講）

例）建学の精神を生かした講座、大学間連携、産官学連携で行う講座、歴史、文化、芸術、健康、スポーツ、社会問題などを学ぶ教養講座

②地域力を高める PBL 型講座（10～15 コマで開講）

例）市民、観光ボランティア、地域コーディネーターの養成、アクティブシニアの活用、社会人の学び直しプログラム（履修証明プログラム）を目的とした講座

B. 講座内容：《既存》「京都力養成コース」対象（オンキャンパス・プラザ科目適応）

①京都力を高める入門講座（4～8 コマで開講）

学習や鑑賞活動を通じて京都活性化のきっかけ作りとなる講座

②京都力を高める PBL 型講座（10～15 コマで開講）

フィールド調査や企画立案実習を通して京都地域に貢献する講座

○支給対象：大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学

京都市関係団体及び産業界

○支給金額：教養コース・京都力養成コースともコーディネート料 10 万円に加え、

①入門講座は、講師料 34,111×コマ数（上限 8 コマ）を事業後に支給する。

②PBL 講座は、講師料 34,111×コマ数（上限 15 コマ）を事業後に支給する。

○支給条件：京カレッジ用に開講される公開講座で、教養コース・京都力養成コースとも京カレッジ生の受講者が 10 名以上見込める講座に対して支給する。申請はコースに限らず原則 1 大学 2 講座までとする（3 講座以上の提供がある場合は相談を受ける）。採択は京カレッジ企画検討会議において行う。

(3) 京カレッジ生の扱い（特典の付与）

これまで出願者には、出願の許可が出た者に対してのみ京カレッジ生の会員証を発行してきた。しかし、定員により受講可とならなかった出願者から、図書館の利用は認められないのかとの要望が少なからず寄せられている。また、出願の際にはあらかじめ会員証用の写真の提供を求めているため、何のための写真提出かとの苦情や返却を求められるなど事務処理上においても煩雑となっている。

出願者にとっては、大学での学びはもちろん、図書館の利用など持続可能な学習の場を求めており、受講不可との理由だけで京カレッジ生として認めないのは生涯学習を提供する側

にとって矛盾行為ともとらえかねない。

そこで、2015 年度からは、京カレッジの出願者を京カレッジ生として迎え入れ、京カレッジ生の証しとして出願者全員を対象に会員証を発行し、京カレッジ生の満足度向上のため、次の特典を提供することとする。

＜京カレッジ生に提供する特典＞

- ① 京カレッジ会員証の無料発行
- ② 加盟校図書館の利用
- ③ 京都・大学ミュージアム連携加盟館の入館料割引（打診中）
- ④ 募集ガイドの次年度無料送付（海外への送付は除く）
- ⑤ キャンパスプラザ京都内喫茶店の学割適応

2. 他機関の生涯学習事業との連携による広報体制の確立

京カレッジは単位互換事業との連動で出発したこともあり、教学系の事務局が担当している場合が多い。しかし近年は、社会貢献として生涯学習の専門部署（エクステンションセンター等）を設置する大学が多くなってきたことから、各大学の生涯学習担当窓口と有機的に連携するほうが適している場合がある。

加盟校へのアンケートにおいて、生涯学習広報イベントを計画した場合、参加を希望するかの問いに「参加を検討する」を含め 10 校が回答している。「今は分からない」が 15 学あるが、内容によっては参加に前向きになることも考えられる。自由記述の回答では「大学の生涯学習情報を集めた生涯学習広報イベントなど、個々の大学の生涯学習を連携させる仕掛けは是非開催していただきたい」（大谷大学）や「加盟大学の生涯学習事業部署のネットワーク組織の形成」（龍谷大学）に期待する声も見受けられる。そこで、生涯学習について事務担当者レベルのワーキンググループ（WG）を構成し、具体的な連携内容やその実行可能性について検討を行う。

◆WG メンバー（案）

- 京都市 総合企画局総合政策室大学政策課から 1 名
- 京都市教育委員会 生涯学習部生涯学習推進課から 1 名
- 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育・施設事業部から 2 名
- 大学コンソーシアム京都加盟大学 生涯学習事業担当事務局から 5 名程度
- 公益財団法人 京都市生涯学習振興財団（京都市生涯学習総合センター）から 1 名

◆WG 検討事項（案）

- ① 生涯学習事業の大学間連携について
- ② 連携した広報体制の確立
- ③ 生涯学習総合イベントの実施について
- ④ 新たな層への生涯学習機会の提供について
- ⑤ 京カレッジ募集ガイドの生涯学習広報ツールとしての活用について
- ⑥ その他生涯学習事業の連携に関すること

3. 今後の進め方について（まとめ）

（1）基本的な考え方

大学の知の開放を目的とする京カレッジの発足当初は 30 代、40 代の参加が見込めていたようだが、大学講義のほとんどが平日昼間に行われており、現役世代が履修することは難しい状況にある。2007 年度に行われたシティーカレッジから京カレッジへの再編時においても団塊の世代の受講を見越しており、受講状況を見ても、60 代から 70 代の受講生が多いこと

から、京カレッジの受講層は今後もこの年代であると想定できる。京カレッジの科目開設にあたっては、このことを意識した編成にすることが、受講者の獲得につながると考えられる。このことを念頭に、今後の基本的な考え方をまとめると次の通りである。

- 一 第 4 ステージプランにおける「提供科目の整理」は、京カレッジ提供科目の「量」から「質」への転換を意識し、受講ニーズに合わせた科目を提供することを目的とする。
- 二 そのために財団は、京カレッジ生の受講ニーズに応じたテーマの分類に再編成し、それに応じた科目の提供を加盟校に要請する。
- 三 加盟校は、京カレッジの新テーマ分類に応じて提供科目の見直しを行い、特に各大学が持つ特色ある科目を優先して京カレッジに科目提供を行う。
- 四 財団は市民教養講座開設補助金を設け、加盟校や行政、産業界から提供を受ける「教養コース」「京都力養成コース」の講座充実を図る。
- 五 加盟校の生涯学習機関が有機的連携できる仕組みを WG で検討し、相互連携での広報展開や生涯学習事業における新たな連携体制を整える。

<2018 年度までの目標設定>

- 出願率：60%以上の出願率維持をめざす。
- 出願者：実数で 600 名以上、延べ数で 1,200 人以上の受講者数維持をめざす。

(2) 検討スケジュール

これらのことを具体的に進めるとなると加盟校の協力なしには考えられない。まずは大学コンソーシアム京都からの提案として加盟校に説明を行い、理解を得る必要がある³。

なお、今後の年間スケジュールを次の通り設定する。

【第 4 ステージにおける京カレッジ事業の年次計画】

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
科目の整理	 あり方検討 (加盟校に打診※)	 移行期(新会員 制度スタート)	 京カレッジ新 ステージのス タート		 総括
広報体制の 確立	 WG で検討	 新たな広報事 業の展開			 総括

※加盟校への打診は 11 月に開催される京カレッジ担当者会議を予定

以 上

³ 特に京カレッジに科目提供が多い京都産業、同志社、立命館、龍谷の 4 大学へはヒアリングを行う予定。

京カレッジ・生涯学習に関するアンケート調査(2014年6月実施)

2014年8月1日現在

■対象:38大学 うち回答大学29校 未回答大学9校 回収率76.3%

【京カレッジ全体に関する設問】

問1 貴大学では京カレッジに科目を提供していますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 提供している	23	79.3%
2. 提供していない	6	20.7%

問2 問1で「1」と回答した場合、その大きな理由は何ですか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 単位互換科目と運動して提供できるから	11	47.8%
2. 大学としての社会貢献活動だから	11	47.8%
3. 大学をPRできるから	1	4.3%
4. 科目開設補助金があるから	0	0.0%
5. その他	0	0.0%

問3 問1で「2」と回答した場合、その大きな理由は何ですか。(該当する番号ふたつまで○)

回答	回答数	割合
1. 教員負担が大きいため	3	50.0%
2. 事務負担が大きいため	0	0.0%
3. 科目を提供するメリットがないため	0	0.0%
4. 提供できる科目がないため	2	33.3%
5. その他	1	16.7%

【その他の理由】
立地が遠方のため(成美大学・短期大学部)

問4 「オンキャンパス科目」を京カレッジとして提供する意義を感じますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 感じる	16	55.2%
2. 感じない	2	6.9%
3. どちらともいえない	11	37.9%

問5 「ブラザ科目」を京カレッジとして提供する意義を感じますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 感じる	14	53.8%
2. 感じない	3	11.5%
3. どちらともいえない	9	34.6%

問6 「ブラザ科目」のみを京カレッジとして提供する仕組みに変更することに影響はありますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 影響はある	9	31.0%
2. 影響はない	14	48.3%
3. 分からない	6	20.7%

【影響のある理由】

- 華道・茶道などは本学の施設設備でのみ提供できる科目なので(池坊短期大学)
- 規程の整備、見直しが必要となるので(大谷大学・短期大学部)
- ブラザ科目での開講は困難(京都教育大学)
- 京カレッジ提供科目は、オンキャンパス科目がほとんどである(京都光華女子大学・短期大学部)
- 現在、オンキャンパス科目として京カレッジに提供している科目があるため(京都工芸繊維大学)
- 本学の提供科目は演習科目が多いが、キャンパスブラザ京都では美術作品の制作・音響などに関する設備面で制限があるため(京都市立芸術大学)
- ブラザ科目の開講は予定がないため、提供科目がなくなる。細かいことで問い合わせも多く事務負担はあるものの、受講生には評判も良く、生涯学習の支援として継続したいと考えている(京都造形芸術大学)
- ブラザ科目を京カレッジに提供できていないため(京都橘大学)
- 受講者及び講師の対応や教室整備にかかる体制をとることに負担がある(人員派遣にかかる費用)、大学内で開講する講義を連続して受けづらくなる(龍谷大学・短期大学部)

問7 京カレッジへの講座提供にどのような支援があると提供しやすいですか。(大きいと考える支援の番号ふたつまで○)

回答	回答数	割合
1. 教室使用料の免除	13	25.0%
2. 講師料の負担	17	32.7%
3. 科目開設補助金の授与	13	25.0%
4. 科目開設に関する相談・支援	4	7.7%
5. その他	4	7.7%
6. 特に支援は必要としない	1	1.9%

【その他の回答】

- 現在の受講者層に偏りがあり先進的な研究結果を発信するチャンネルとして適切性に疑問がある(京都教育大学)
- 美術作品の制作に対応できる教室の設置、音響等の設備面での充実など(京都市立芸術大学)
- 本学の場合、「ブラザ科目」として開講する意義がない。あるとすれば、として、問7を回答(京都造形芸術大学)
- 講座に関する広報(種智院大学)
- 受講者及び講師の対応や教室整備にかかる体制(龍谷大学・短期大学部)

問8 支援がある場合、「プラザ科目」や「市民教養講座」を提供することは可能ですか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 支援があれば提供できる	1	3.6%
2. 支援がなくても提供できる	0	0.0%
3. 提供は難しい	3	10.7%
4. 検討する	9	32.1%
5. 今は分からない	13	46.4%
6. その他	2	7.1%

【その他の回答】

○既に提供している(京都文教短期大学)
○学内の状況として、キャンパスプラザ京都で開講することや、大学の正課科目以外として開講することに対して消極的な面があることは否めない(立命館大学)

問9 京カレッジに対するご意見やご要望等があればお書きください。

○単位互換・京カレッジそれぞれの提供科目は共通科目が多いため、京カレッジの後期出願提供科目の確認日程を単位互換科目と一緒にしていただけると業務上効率が良いので、ご検討下さい(京都光華女子大学・短期大学部)
○入学科負担を軽減できれば、受講生の数が増加すると考えます(京都市立芸術大学)
○「オンキャンパス科目」での提供の継続を希望します(京都造形芸術大学)
○現状、お願いしなければならない点等ありません(種智院大学)

【京カレッジ出願手続き・会員証に関する設問】

問10 出願時に大学の手続き等で写真は必要とされますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 科目履修生・聴講生両方ともに必要である	15	51.7%
2. 科目履修生のみ必要である	5	17.2%
3. 聴講生のみ必要である	2	6.9%
4. 両方とも必要ではない	5	17.2%
5. その他	2	6.9%

問11 貴大学で京カレッジ会員証はどのような場で必要となりますか。(該当する番号に○)

回答	回答数	割合
1. 大学構内入出に必要	2	4.5%
2. 授業の出席時に必要	4	9.1%
3. 試験・レポート提出時に必要	11	25.0%
4. 図書館の入館の際に必要	6	13.6%
5. 図書館の本貸出しに必要	7	15.9%
6. 特に必要としていない	7	15.9%
7. その他	7	15.9%

【その他の理由】

○実際に授業は提供していないが、強いて言うとならば③試験、レポート提出時に必要となる(大阪医科大学)
○身分確認(京都光華女子大学・短期大学部)
○大学来構内滞在時に提示を求められれば見せなければならぬ(京都嵯峨芸術大学・短期大学部)
○ラーニングコモンズ等、本学が認めた者しか利用できない施設利用の際に必要(同志社大学)
○本学で発行する科目履修生証が出来あがる迄の仮学生証として必要です(龍谷大学・短期大学部)

問12 写真を添付しない会員証へと変更した場合、貴大学にとって影響はありますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	割合
1. 影響はある	12	41.4%
2. 影響はない	15	51.7%
3. 分からない	2	6.9%

【影響のある理由】

○問11と同じく、試験受験時に必要である(大阪医科大学)
○身分確認の為(京都光華女子大学・短期大学部)
○本学では試験の際に顔写真との照合を実施しているため(京都工芸繊維大学)
○顔写真がないと本人か否かわからない。会員証以外に本人確認ができるものを携帯されるなら影響はない(京都嵯峨芸術大学・短期大学部)
○本学の付属図書館では、本を借りる際に会員証の写真で本人確認を行うため(京都市立芸術大学)
○本学独自の履修生証を発行しないため(京都西山短期大学)
○普段は提示を必要としないが、何かトラブルがあった際に、どなたかの判別に必要(京都造形芸術大学)
○有事に本人確認ができないため(京都橘大学)
○写真がなくなることで本人確認が困難になる(京都府立大学)
○試験の受験の際に本人照合ができない→会員証は学校で発行していない(京都文教大学)
○本人確認をするにあたり、IC認証等、偽造できないものであれば写真はなくても構わないが、システム対応等が伴うため、最もアナログだが確実にできるのは写真照合であるため(同志社大学)
○問11の際、本人確認が困難になる(佛教大学)
○大学に入講する際に確認するため(平安女学院大学・短期大学部)

問13 京カレッジの出願手続き、会員証に関してご意見・ご要望があればお書きください。

○受講生の募集期間をもう少し長く(1ヵ月間程度)することは可能でしょうか(大谷大学・短期大学部)
○京カレッジの出願手続きでは、例年、スケジュールをご理解いただけてない方が多く、授業開始前に許可が届かないことに関して、苦情が寄せられます。冊子記載のスケジュールを説明いたしますが、全く見ておられません。出題、仮受講、結果通知の流れを冊子だけでなくリーフレット等での案内が必要だと考えます(京都造形芸術大学)
○本学では、京カレッジ対象科目をプラザ科目のみにしているため、特にありません(種智院大学)

【生涯学習の広報活動に関する設問】

問14 生涯学習広報イベントを計画した場合、貴大学はそのイベントへの参加を希望されますか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数	備考
1. ぜひ参加したい	3	大谷大学、京都嵯峨芸術大学、龍谷大学
2. できれば参加したい	2	京都学園大学、京都橘大学
3. 参加を検討する	5	京都光華、市立芸術、造形芸術、ノートルダム、種智院
4. 今は分からない	16	
5. 参加しない	2	

問15 問14で「1」と回答した場合、どのような内容に参加されますか。(該当する番号に○)

回答	回答数	備考
1. PRとしての模擬公開講座(60分)	2	京都橘大学、龍谷大学
2. 生涯学習講座パンフレット等の資料配布	4	大谷、嵯峨芸術、造形芸術、龍谷
3. 生涯学習相談を受け付けるブース出展	2	大谷大学、京都嵯峨芸術大学
4. 生涯学習を紹介するパネル展示	0	
5. その他	0	

問16 貴大学で新年度の生涯学習に関する広報を開始される時期はいつですか。

月回答	回答数	日回答
1月	1	
2月	4	1日～5日、6日～10日、16日～20日、21日～25日、26日～31日
3月	5	1日～5日、11日～15日
4月	3	
5月	1	26日～31日
8月	3	
12月	1	11日～15日

問17 京カレッジ募集ガイド(3月上旬発行)に情報を掲載したい生涯学習事業はありますか。

回答	回答数	備考
1. ある	4	大谷、嵯峨芸術、ノートルダム、龍谷
2. ない	24	
3. 無回答	1	

問18 高等教育イベントNAVIサイト「教まちや」(<http://henews.consortium.or.jp/>)を利用されていますか。

回答	回答数	備考
1. 利用している	1	京都精華大学
2. 利用していない	15	
3. 「教まちや」を知らなかった	12	
4. 無回答	1	

問19 貴大学で生涯学習講座を広報するにあたって工夫または苦心している点があればお書きください。

○工夫している点…わかりやすい講座タイトルをつけること。苦心している点…効果的な広報媒体や広告方法を見つけること(大谷大学)
○大学主催の公開講座の案内を、講座の性格に合わせて「京カレッジ」や「京の府民学」「Go GO土曜塾」にもあわせて掲載している(京都教育大学)
○近隣からの集客を増やすための工夫(京都光華女子大学)
○(工夫)小学生向けの講座は、近隣小学校を中心に募集チラシを別途配布している(苦心)新たな層に向けた広報活動の展開(京都嵯峨芸術大学)
○Facebook、TwitterなどのSNSツールを用いて、デジタル世代への認知を広げようと試みてはいるが、時間・経済的に余裕があるとは言えない(若年～中堅世代へのリーチが難しい)(京都造形芸術大学)
○チラシ・HP・パンフレットで広く広報を行っている(京都府立大学)
○エクステンションセンターのように生涯学習講座等を統括する組織そのものが学内にないため、各部署がそれぞれ独自に行っている状況であり、広報活動そのものが脆弱(同志社大学)
○毎学期、申込受付前に、新聞での特集記事広告や折り込みチラシで広報をおこなっている。しかしながら、広報活動には多額の予算がかさむため、広報費のかからない有効な広報活動の手段を模索している(龍谷大学)

【生涯学習事業に関する設問】

問20 貴大学では生涯学習事業の対象として拡大を希望する世代はありますか。(該当する番号に○)

回答	回答数	備考
1. 就学前	0	
2. 小学生	0	
3. 中学生	1	嵯峨芸術
4. 高校生	7	京都学園、嵯峨芸術、市立芸術、西山短期、橘、府立医科、平安女学院
5. 大学生	3	橘、京都府立、文教
6. 若年離職者	1	佛教
7. ビジネスパーソン(若年)	9	経済短期、工芸繊維、嵯峨芸術、精華、造形芸術、橘、文教、同志社、龍谷
8. ビジネスパーソン(中堅)	7	大谷、工芸繊維、精華、橘、文教、同志社、龍谷
9. ビジネスパーソン(管理職)	3	工芸繊維、精華、龍谷
10. 経営者・経営幹部	1	工芸繊維
11. 子育て世代	7	大阪医科、大谷、光華、西山短期、橘、文教、佛教
12. その他	0	
13. 特になし	3	京都教育、京都薬科、立命館

問21 貴大学が生涯学習事業を推進する意義や目的は何ですか。(該当する番号ひとつに○)

回答	回答数
1. 大学の社会貢献事業として	23
2. 外部資金獲得のため	0
3. 大学PRのため	1
4. その他	2
5. 無回答	3

【その他の回答】

薬剤師等の資質向上と薬剤師の実務および研究面での支援を目的としている(京都薬科大学)
現時点で生涯学習事業を推進しているとは言えない状況である(同志社大学)

問22 貴大学において生涯学習事業を展開するにあたって工夫または苦心している点があればお書きください。

○工夫している点…カルチャーセンターなどの共催講座を開講すること(2015年度予定)
苦心している点…新規受講生を獲得すること(大谷大学)
○地域に大学の学びや教員を知ってもらいたいという思いで公開講座に注力している(京都光華女子大学)
○参加者の確保に苦心している(大学のシーズと地域社会のニーズのマッチングや広報活動に苦心している)(京都工芸繊維大学)
○(工夫)芸術大学という特色を活かした絵画・ものづくり系の講座を充実させている。地域連携事業に結びつく講座を展開している(苦心)教室の確保(京都嵯峨芸術大学)
○ニーズのある講演テーマの設定、若年層の取り込み、アンケートの回収率の向上、これら3点に苦心している(京都橘大学)
○1度参加いただいた方については、リピーターとして参加いただいているが、新たな参加者、特に若い年代の方に参加いただくのが、今後の課題となる(京都府立医科大学)
○地域住民だけでなく、学生も含めた多世代間の学習活動を通じて地域教育厚生と活性化を目指したい(京都文教大学)
○問21の目的を達成するための生涯学習プログラムの企画(演題、講師の選定)(京都薬科大学)
○本学における生涯学習事業は、主に聴講生制度となっているのですが、聴講生の方々へ学事日程等を浸透させる事において、非常に苦労しています(種智院大学)
○エクステンションセンターのように生涯学習講座等を統括する組織そのものが学内にないため、各部署がそれぞれ独自に行っている状況であり、広報活動そのものが脆弱(同志社大学)
○多様なニーズに応えるべく、様々な分野の講座を年間約440講座開講。しかしながら中には当初設定の定員を満たさず不開講となる講座や支出超過になる講座もあり、いかにしてニーズにあった講座を提供できるかが毎年の課題である(龍谷大学・短期大学部)

問23 生涯学習事業に熱心に取り組んでいると思われる財団加盟の大学・短期大学名を最大3つまでご記入ください。

回答	回答数
佛教大学	5
立命館大学	3
龍谷大学	3
京都工芸繊維大学	1
京都精華大学	1
大谷大学	1
京都文教大学	1
光華女子大学	1
京都女子大学	1
京都橘大学	1

問24 生涯学習事業に関して大学コンソーシアム京都に対するご意見・ご要望があればお書きください。

○大学の生涯学習情報を集めた生涯学習広報イベントなど、個々の大学の生涯学習を連携させる仕掛けは是非開催していただきたいです(大谷大学)
○いつも、いろいろとご協力いただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。他大学の学生の方にも是非公開講座に参加して頂ければと思います(京都文教大学)
○いつもきめ細かくご対応いただいておりますので、特に要望等はありません(種智院大学)
○加盟大学の生涯学習事業部署のネットワーク組織の形成(龍谷大学・短期大学部)

以上

2014年度キャリアアップ講座出願状況

	科目CD	開講期	承認者数	科目名	開講大学	授業形式
1	L001	後期	4	佐藤弘樹のワンポイントイングリッシュ	京都外国語大学	プラザ科目
2	L002	前期	1	はじめてのドイツ語＜入門＞	京都外国語大学	プラザ科目
3	L003	後期	0	はじめてのドイツ語＜入門＞	京都外国語大学	プラザ科目
4	L004	前期	2	やさしいドイツ語会話＜初級＞	京都外国語大学	プラザ科目
5	L005	後期	2	やさしいドイツ語会話＜初級＞	京都外国語大学	プラザ科目
6	L006	前期	1	たのしいドイツ語会話＜中級＞	京都外国語大学	プラザ科目
7	L007	後期	0	たのしいドイツ語会話＜中級＞	京都外国語大学	プラザ科目
8	L008	前期	1	はじめてのポルトガル語＜入門＞	京都外国語大学	プラザ科目
9	L009	後期	0	やさしいポルトガル語会話＜初級＞	京都外国語大学	プラザ科目
10	L010	前期	0	中国語講座入門	立命館大学	プラザ科目
11	L011	後期	0	中国語講座入門	立命館大学	プラザ科目
12	L012	前期	0	中国語講座初級Ⅰ	立命館大学	プラザ科目
13	L013	後期	0	中国語講座初級Ⅰ	立命館大学	プラザ科目
14	L014	前期	0	中国語講座初級Ⅱ	立命館大学	プラザ科目
15	L015	後期	1	中国語講座初級Ⅱ	立命館大学	プラザ科目
16	L016	前期	0	中国語講座準中級Ⅰ	立命館大学	プラザ科目
17	L017	後期	0	中国語講座準中級Ⅰ	立命館大学	プラザ科目
18	L018	前期	0	中国語講座準中級Ⅱ	立命館大学	プラザ科目
19	L019	後期	0	中国語講座準中級Ⅱ	立命館大学	プラザ科目
20	L020	前期	1	中国語講座中級	立命館大学	プラザ科目
21	L021	後期	2	中国語講座中級	立命館大学	プラザ科目
22	L022	前期	0	中国語講座準上級	立命館大学	プラザ科目
23	L023	後期	0	中国語講座準上級	立命館大学	プラザ科目
24	L024	前期	0	ビジネス中国語講座(中級)	立命館大学	プラザ科目
25	L025	後期	1	ビジネス中国語講座(中級)	立命館大学	プラザ科目
26	L026	前期	0	中国語会話(上級)	立命館大学	プラザ科目
27	L027	後期	1	中国語会話(上級)	立命館大学	プラザ科目
28	L028	前期	0	新HSK対策講座(5級)	立命館大学	プラザ科目
29	L029	後期	1	新HSK対策講座(5級)	立命館大学	プラザ科目
30	L101		0	宅地建物取引主任者講座	京都学園大学	オンキャンパス科目
31	L102		0	ITパスポート講座	京都産業大学	オンキャンパス科目
32	L103		0	色彩検定(カラーコーディネーター養成)講座	京都産業大学	オンキャンパス科目
33	L104		0	通関士講座	京都産業大学	オンキャンパス科目
34	L105		0	秘書技能検定講座／春期2級	京都産業大学	オンキャンパス科目
35	L106		0	秘書技能検定講座／秋期2級	京都産業大学	オンキャンパス科目
36	L107		0	秘書技能検定講座／春期準1級	京都産業大学	オンキャンパス科目
37	L108		0	ファイナンシャル・プランナー(FP)講座／3級	京都産業大学	オンキャンパス科目
38	L109		0	ファイナンシャル・プランナー(FP)講座／2級	京都産業大学	オンキャンパス科目
39	L110		0	不動産(宅建)講座	京都産業大学	オンキャンパス科目
40	L111		0	簿記検定講座／春期3級	京都産業大学	オンキャンパス科目
41	L112		0	簿記検定講座／秋期3級	京都産業大学	オンキャンパス科目
42	L113		0	簿記検定講座／2級	京都産業大学	オンキャンパス科目
43	L114		0	貿易実務検定講座／C級	京都産業大学	オンキャンパス科目
44	L115		0	旅行業講座	京都産業大学	オンキャンパス科目
	出願率	27%	18	名		

2014年度京カレッジ大学・短期大学提供科目・出願状況(前期)

大学名	A		B		C		D		E		F		G		H		I		J		K		L		M		合計		
	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	提供	出願	
池坊短期大学			7	4																						7	4		
大谷大学			2	2							2	2														1	1	5	5
大谷大学短期大学部					1	1					1	1	4	4													6	6	
華頂短期大学			1	1																							1	1	
京都外国語大学			1	1					1	1													9	6	1	1	12	9	
京都外国語短期大学									1	0																	1	0	
京都学園大学	1	1	3	3															3	2							8	6	
京都華頂大学											1	0															1	0	
京都教育大学					4	4			3	0							4	4									15	12	
京都光華女子大学	1	1			2	2					5	3							4	1							12	7	
京都光華女子大学短期大学部													1	1													1	1	
京都工芸繊維大学	1	1																	1	0							2	1	
京都嵯峨芸術大学	1	1	1	1	1	0													3	1					1	1	7	4	
京都嵯峨芸術大学短期大学部					1	0																					1	0	
京都産業大学											1	0			3	0			19	1			14	0	1	1	38	2	
京都市立芸術大学			4	1	12	4																3	3				19	8	
京都西山短期大学											1	0	3	3													4	3	
京都造形芸術大学	1	1	1	1	8	8															2	2					12	12	
京都橘大学			6	1	1	1			4	2	1	0							1	1	4	4					17	9	
京都ノートルダム女子大学	2	1	5	2	1	0	1	0	2	0	2	1	1	1	1	1											15	6	
京都府立大学			1	0												1	0	2	0	1	0						5	0	
京都文教大学			2	0							3	0								7	0						12	0	
京都文教短期大学			2	2			1	0	2	0																	5	2	
京都薬科大学											1	1			1	0											2	1	
種智院大学			4	4																							4	4	
同志社大学			8	3													6	2	26	8							40	13	
同志社女子大学	1	1	1	0	1	0	3	1	2	2	1	0			1	0			1	0							11	4	
花園大学	2	1	1	1							3	2															6	4	
佛教大学	1	1							1	0	1	0															3	1	
平安女学院大学	2	1	5	2	1	0			1	0															1	1	10	4	
立命館大学	1	1	2	1	1	0	2	1			1	0	4	2			1	0	21	8			20	1			53	14	
龍谷大学	1	0	2	0	1	1					3	3					8	2	16	7					1	1	32	14	
龍谷大学短期大学部											4	0															4	0	
放送大学																										1	1	1	1
大学コンソーシアム京都																										1	1	1	1
合計	15	11	59	30	35	21	7	2	17	5	31	13	13	11	7	1	21	8	103	29	13	13	44	7	8	8	373	159	
	73.3%		50.8%		60.0%		28.6%		29.4%		41.9%		84.6%		14.3%		38.1%		28.2%		100.0%		5.9%			100.0%		42.6%	

京カレッジ テーマ別科目分類再編案

現 行		現 在 の 内 容
現 状		
大 学 講 義	A 京都（みやこ）を探る	科目のメインに「京都」が関わる内容。多面的なアプローチによる京都市学的なもの。
	B 歴史と文化に触れる	科目のメインに「歴史」や「文化」が関わる内容。
	C 美の世界に触れる	美術史、美術品、絵画、工芸品等、科目のメインに「美」「芸術」というものが関わる内容。音楽、美容、精神面での美も含む。
	D 文学の世界に触れる	文学、文学史、作家（作者）、古典等、科目のメインに「文学」が関わる内容。
	E ことばの魅力を知る	言語、ことば、外国語、コミュニケーション等、科目のメインに「ことば」を連想できるものが関わる内容。
	F いのちと人間を考える	生命、いのち、個人が生きていること、個人の生き方や生き様、人間、人間性等、科目のメインに「いのちと人間を考える」といったものが関わる内容。
	G 教育とは...何だろう	教育学、教職免許、学ぶこと、人や育つということ、教えるということ、学校等、科目のメインに「教育とは何か」を考えるようなものが関わる内容。
	H 自然に学ぶ	科目のメインに「自然」というものが関わる内容。
	I 環境とくらしを考える	環境学、環境、人々のくらし、過去の人々のくらし、技術と環境等、科目のメインに「環境とくらし」「環境と人間」を考えるようなものが関わる内容。
	J 現代社会を知る・考える	現代社会の問題点、社会現象、政治や経済の動向、法・経済・労働、国際関係等、多様なアプローチによる「現代社会」に関わる内容。
公 開 講 座	K 市民教育講座	教養を向上させる機会として、大学が公開している講座やシンポジウムなど。
	L キャリアアップ講座	キャリアアップのための資格取得の試験対策講座を中心とした講座。
	M 京都力養成コース	産官学地域連携によるフィールドワークと座学を組み合わせた講座。

再編案		想定される学問分野	
新分類			
大学講義	A 京（みやこ）を学ぶ	京の歴史、伝統文化、産業、地域、観光など京都を多様な角度から学ぶ科目群	
	B 歴史を学ぶ	日本史、世界史、考古学、地史学、民俗学、郷土史、古文書など歴史観を養う科目群	
	C 文化・芸術を学ぶ	文学、音楽、デザイン、美術、絵画、工芸、芸能など文化・芸術に親しむ科目群	
	D ことばを学ぶ	言語学、外国語、演劇、コミュニケーションなど表現を身に付ける学ぶ科目群	
	E 人間観を学ぶ	心理、教育、福祉、宗教学、哲学、倫理、思想など人の生き方を考える科目群	
	F 生活・健康・スポーツを学ぶ	衣食住、くらし、生命医学、看護、健康、スポーツなどライフスタイルに必要な知識を得る科目群	
	G 自然・環境を学ぶ	環境学、地理学、農学、天文学、物理学、生物学、生態学など自然界に触れる科目群	
	H 現代社会を学ぶ	法学、経済学、経営学、政治学、社会学、科学技術、情報学など多様な観点から現代社会を観察する科目群	
	I 国際関係を学ぶ	法、政治、教育、福祉、研修セミナーなどを通じて世界情勢を知り、グローバルな視点を養う科目群	
	J 教養コース	教養を向上させる機会として、大学が提供する公開講座やシンポジウム群	
市民教養講座	K 京都力養成コース	歴史・文化・芸術等の宝庫である京都をフィールドに、蓄積された研究から京都をより深く学べる、特色あるプログラム群	